

第二表

彈丸一米ニ測入ル彈道誤差量(米)	彈丸一米ニ測入ル彈道誤差量(米)					
	I	II	III	IV	V	VI
300						
400	0.0	0.1				
500			0.1			
600				0.1		
700					0.1	
800	0.1	0.2	0.2	0.2		
900		0.2	0.2	0.2	0.2	
1000			0.2	0.2	0.2	0.2
1100				0.2	0.2	0.2
1200					0.2	0.2
1300						0.2
1400	0.2	0.3				
1500		0.3				
1600						
1700						
1800	0.3	0.3				
1900						
2000						
2100						
2200	0.3	0.3				
2300						
2400						
2500	0.2					
2600						
2700						
2800	0.2					
2900						
3000	0.0					0.11
3100						
3200	0.0					
3300						
3400	0.0					
3500						
3600	0.0					
3700						
3800	0.0					

一一一六

第四節 射彈ノ散布

第二百六 射撃教範第三十第一、第二項ヲ準用ス

第二百七 砲ノ精度ハ低射界ナルト高射界ナルトニ依リ異ナリ又同一射距離ニ在リテモ裝藥ノ種類ニ依リ異ナルモノトス

低射界射撃ニ於ケル精度ハ同一射距離ニ於テハ二號裝藥ヲ用ヒタル場合最も良好ニシテ一號裝藥之ニ次キ三號裝藥、四號裝藥ハ逐次低下ス

高射界射撃ノ精度ハ低射界ノモノニ比シ射距離上ニ於テ良好ナルモ方向上ニ於テハ之ニ反ス

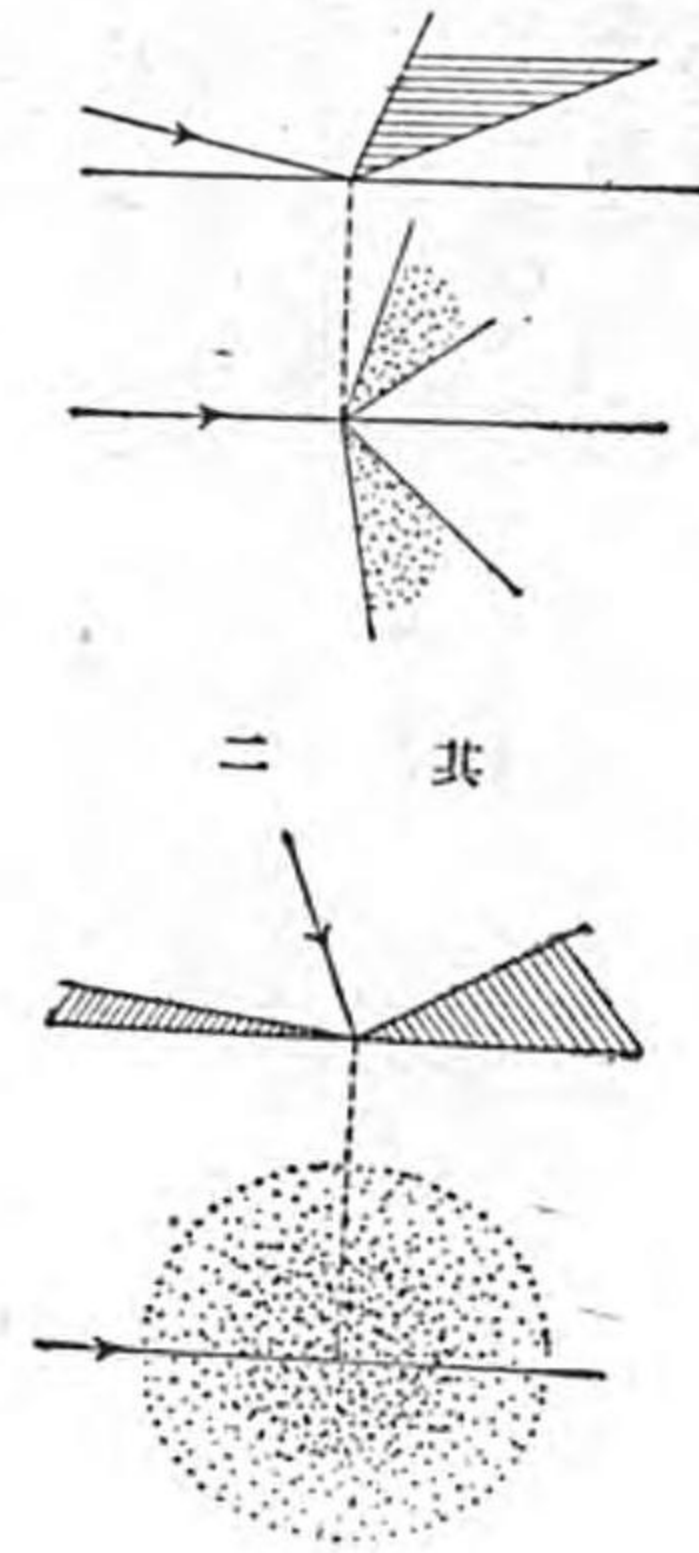
第五節 射撃效力

第二百八 榴彈ハ瞬發信管又ハ短延期信管ヲ附シ其信管ノ種類ニ依リ效力ヲ異ニス

射撃法 射撃ニ關スル定説

第二百九 瞬發信管附榴彈ハ彈著ノ瞬時ニ破裂シ破片ノ大部ハ彈道ニ略直角ナル方向ニ散布シ落角小ナルトキハ彈著點ノ側方ニ於ケル密度著シク大ナルモ落角大ナルニ從ヒ散布ノ状態ハ圓形ニ近ツクモノトス(第十二圖)

第二十圖



有效破片ハ彈著點ヨリ約二十米ニ達スルモ此限界附近ニ於ケル破片ノ密度ハ極メテ小ナリ

低射界射撃ニ於テ瞬發信管附榴彈ノ信管ノ作用スル射距離ハ裝藥ノ種類、土地ノ傾斜、起伏及土質等ニ依リ異ナルモ土地平坦ニシテ尋常土ナルトキハ左ノ限界以上ナルヲ要ス

- 一號裝藥 千米
- 二號裝藥 六百米
- 三號裝藥 二百米
- 四號裝藥 百米

第二百十 短延期信管附榴彈著シ跳飛セサルトキハ若干地中ニ侵入シタル後破裂スルモノニシテ輕掩蓋ニ對シテハ掩蓋ヲ破壊スルノ效力ヲ有ス低射界射撃ニ於テ短延期信管附榴彈ノ信管ノ作用スル射距離ハ裝藥ノ種類、土地ノ傾斜、起伏及土質等ニ依リ異ナルモ土地平坦ニシテ尋常土ナルトキ

ハ左ノ限界以上ナルヲ要ス

一號裝藥 六百米

二號裝藥 三百米

三號裝藥

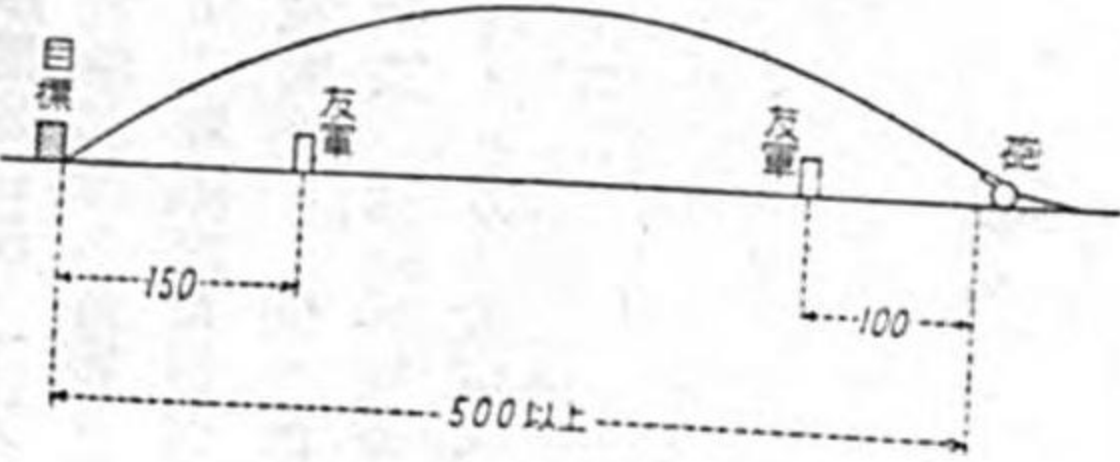
四號裝藥

顧慮ヲ要セス

第六節 超過射撃及間隙射撃

第二百一 低射界射撃ニ於テ超過射撃ヲ行フニ方リ暴露セル友軍ニ危害ヲ與ヘサル爲ノ射距離、目標ト友軍トノ離隔度及砲ト友軍トノ離隔度ノ限界ハ狀況特ニ地形ニ依リ一定セスト雖平坦地ニ在リテハ概ネ第十三圖ニ示ス量ヲ以テ標準トス

第三十圖



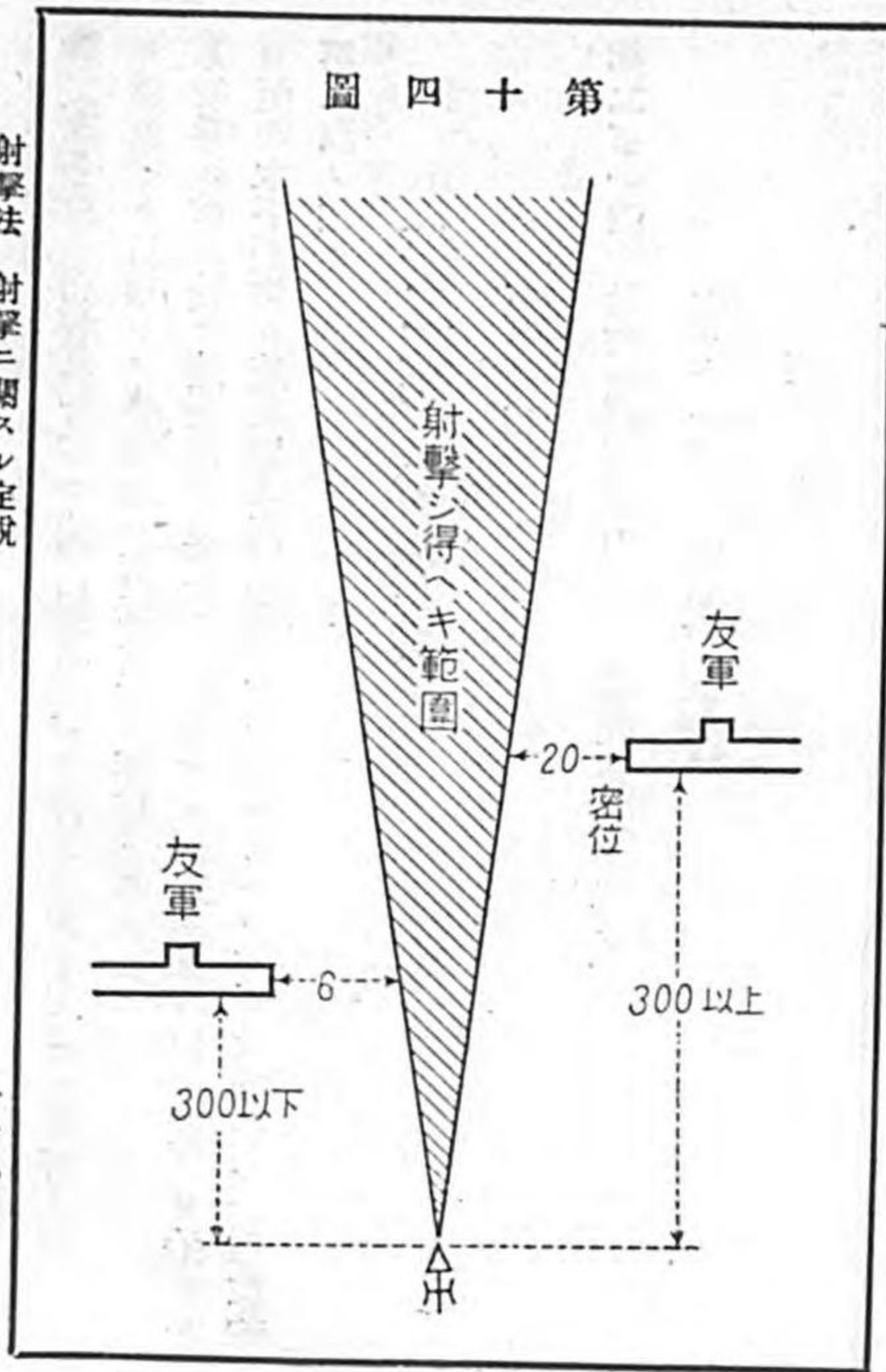
單位ハ米トス(以下同シ)

友軍ハ立姿ヲ基準トス

友軍ノ頭部砲目線ノ下方ニ在ル場合ニ於テハ前項ニ示ス射距離ノ限界以内ニ在リテモ友軍ニ危害ヲ與フルコトナク超過射撃ヲ行フコトヲ得此場合砲ト友軍トノ離隔度及目標ト友軍トノ離隔度ノ限界ハ砲目線ト友軍ノ頭上トノ離隔量大ナルニ從ヒ漸次短縮セラルルモノトス

第二百十二 低射界射撃ニ於テ平坦地超過射撃限界射距離以内ニ於テ間隙射撃ヲ行フニ方リ友軍ニ危害ヲ與ヘサル爲ノ限界ハ第十四圖示スニ量ヲ以テ標準トス

圖 四 十 第



第二百十三 高射界射撃ニ於テ超過射撃ヲ行フニ方リ友軍ニ危害ヲ與ヘサル爲友軍ト目標トノ離隔度ハ百五十米ヲ標準トス
 高射界射撃ニ於テ遮蔽物ヲ超過シテ射撃スルニ方リテハ砲位置ヨリ遮蔽頂ニ至ル水平距離ヲ遮蔽物ノ高サヨリ大ナラシムルヲ要ス其關係ハ射撃教範第五圖ノ如シ

第二章 射撃教育

要則

第二百十四 射撃教範第四百九乃至第五百五十二ヲ準用ス

第一節 基本教育

要旨

第二百五 基本教育ニ於テハ小隊長以下ノ射撃技能ヲ練習スルモノニシテ特ニ意ヲ用ヒテ教育スヘキ事項左ノ如シ

- 一 迅速ナル目標ノ發見及選定
- 二 照準具及照準機ノ操作
- 三 駐鋤ノ固定
- 四 迅速ナル目標變換
- 五 射撃ノ觀測及射撃修正(射撃豫習ニ依ル)

第一款 照準教育

要旨

第二百十七 照準ニ關スル名稱左ノ如シ

射撃法 射撃教育

照準線トハ眼鏡内十字ノ交截點ヲ通スル視線ヲ謂フ
 照準面トハ照準線ヲ含ム垂直面ヲ謂フ
 方向照準トハ照準面ヲ所望ノ方向ニ導クヲ謂ヒ高低照準トハ火砲ニ所望
 ノ射角ヲ與フルヲ謂フ而シテ此兩照準ヲ併セ行フヲ照準ト謂フ
 照準線ヲ直接目標ニ通シ砲ニ所望ノ射角、射角ヲ附與スルヲ直接照準ト
 謂ヒ照準線ヲ直接目標ニ通スル能ハサル場合ニ於テ他ノ方法ニ依リ砲ニ
 所望ノ射角、射角ヲ附與スルヲ間接照準ト謂フ
第二百十八 射撃教範第五百五十六及第五百五十七ヲ準用ス
第二百十九 射撃教範第六百六十ヲ準用ス
 記號ヲ以テ砲ノ方向ヲ移動セシムルニハ四番ハ眼鏡上面ヨリ概略ノ標準ヲ
 爲シツツ右手ヲ以テ架尾ヲ移動スヘキ方向ヲ示ス
第二百二十 分畫ヲ裝スルニハ方向及量ヲ誤ラサルコト緊要ナリ之カ爲其
 修正量ハ計算ニ依ルコトナク照準具上ニ分畫ヲ讀ミツツ裝定スルモノトス

回轉盤分畫ニ在リテハ其本分畫ハ一分畫、補助分畫ハ十密位(端數ハ更ニ
 一密位)ツツテ逐次ニ讀ミテ裝定スルヲ可トス
 俯仰分畫及高低水準器分畫ニ在リテモ亦前項ニ準ス
第二百二十一 回轉螺桿(永轉螺)ニ空轉ヲ生シアル回轉盤、表尺、俯仰轉
 輪、高低角水準器ニ在リテハ之ヨリ生スル誤差ヲ除去スル爲分畫ノ裝定ニ
 方リ最後ノ轉輪ヲ「増シ止メ」(分畫ノ増加スル方向ニ轉輪ヲ止ムルヲ謂フ)
 ト爲シテ分畫ヲ合ハスヘシ
第二百二十二 照準ハ裝填ニ伴ヒ偏移ヲ生スルコトアルヲ以テ裝填完了ノ
 直後ニ終ル如ク習熟セシムルコト必要ナリ
第二百二十三 氣泡ヲ氣泡管ノ中央ニ導ク操作ハ照準ノ遲速ニ影響スルコ
 ト大ナルヲ以テ之カ操作ニ習熟セシムルヲ要ス
 氣泡ヲ迅速ニ氣泡管ノ中央ニ導クニハ轉輪ノ回轉方向ト氣泡ノ移動方向ト
 ニ注意シ通常略、所望ノ點ニ來ルマテハ迅速ニ爾後ハ徐々ニ轉輪ヲ廻ハシ

テ氣泡將ニ中央ニ達セントスル瞬間ニ少シク之ヲ反對方向ニ壓シ終ニ之ヲ中央ニ靜止セシムル如クスルヲ可トス而シテ氣泡ハ一旦靜止シタル後再ヒ變位スルコトアルニ注意スルヲ要ス

第二百二十四 射撃教範第百六十四ヲ準用ス

射向附與及同變換

第二百二十五 同轉盤ヲ裝定スルニハ其分畫ノ裝定及讀ミ方ヲ誤ルコトナク且解脫子把子ノ起伏操作ニ習熟セシムルヲ要ス
分畫ノ裝定及讀ミ方ハ補助分畫九十附近ニ於テ屢、一分畫ヲ誤ルコトアルニ注意スルヲ要ス之カ爲裝定ニ方リテハ同轉盤ノ指標ヲ所命ノ分畫ニ一致セシメタル後補助分畫ヲ廻ハス如クスヘシ又讀ミ方ノ誤ヲ防ク爲ニハ先ツ補助分畫ヲ讀ミ然ル後本分畫ヲ讀ムヲ可トス
解脫子ノ把子ハ適度ニ之ヲ起シ同轉盤ト齒輪トノ啞合ヲ完全ニ解キ以テ回

轉盤ヲ廻ハスニ方リ其頭部ヲ磨損セサル如クシ又之ヲ舊位ニ復スルニ方リテハ拇指ヲ解脫子ノ把子ニ添ヘツツ靜ニ操作シ發條ノ彈發力ニ委セシメサルヲ要ス此際補助分畫ノ移動スルコトアルニ注意スルコト必要ナリ

第二百二十六 方向ヲ右(左)ニ修正セントスルトキハ同轉盤分畫ヲ增(減)スルヲ本旨トス

方向照準機轉輪ニ依ル射向變換ニ方リテハ轉輪ノ回轉方向ヲ誤ラス且其量モ略、變換スヘキ量ニ一致スルコトニ精熟セシムルヲ要ス此際方向照準機各部ノ遊隙ノ爲其旋回量ニ不足ヲ生セシメサルコトニ注意スルヲ要ス
轉輪ノ一回轉ニ應スル射向變換量ハ約二十密位ニ相當ス

第二百二十七 垂球ニ依リ射向ヲ附與スル場合方向移動量稍、大ナルトキハ二番及三番ヲシテ脚ヲ移動セシメ概略ノ方向ヲ附與セシメタル後四番ヲシテ方向照準機轉輪ヲ操作セシメツツ正確ニ射向ヲ附與ス

第二百二十八 間接照準ニ依リ射向ヲ附與スル場合ニ於テハ高低水準器分

畫ヲ零位ニ在ラシメ且其氣泡及傾斜水準器ノ氣泡ヲ管ノ中央ニ在ラシムルヲ要ス

射角附與及同變換

第二百二十九 表尺ノ裝定ニ方リテハ特ニ其改裝ニ習熟セシムルヲ要ス之カ爲展、生起スヘキ射距離ノ變換ヲ行ヒ轉輪ノ裝作ヲ練習セシメ又所命ノ裝藥號ヲ誤ラサルコト及射距離増減ノ方向ハ低射界(黑色)、高射界(赤色)各、相反スルコトニ注意シテ教育スルヲ要ス

第二百三十 距離分畫ハ其最小分畫ノ二分ノ一マテ正確ニ裝定シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

第二百三十一 間接照準ニ於テ射角ヲ附與スル場合ニ於テハ高低角水準器分畫ハ必ス零位(高低角ノ修正ヲ要スルトキハ所要ノ修正量)ニ在ラシムルヲ要ス

第二百三十二 補助照準點ニ依リ射撃ヲ行フ場合ニ於テ目標ト補助照準點トノ高低差(密位量)ヲ修正スルニハ補助照準點目標ヨリ高(低)キトキハ俯仰分畫ヲ増ス(減ク)モノトス

第二百三十三 高低角水準器分畫ノ裝定ニ方リテハ特ニ本分畫ノ零附近ニ於テ正負ヲ誤リ易キヲ以テ分畫ノ讀ミ方ニ注意シテ教育スルヲ要ス

第二款 射彈ノ觀測

第二百三十四 射撃教範第百六十九乃至第百七十四ヲ準用ス

第二百三十五 瞬發信管附榴彈ヲ以テ低射界射撃ヲ行フニ方リ近距離ニ於テハ往々信管作用セスシテ跳飛スルコトアリ此場合ニ於テハ第二以後ノ彈著點ニ於テ破裂スルモノニシテ其方向、距離等ハ裝藥ノ種類、第一彈著點ノ地形ニ依リ一定セサルヲ以テ射彈ノ觀測上注意ヲ要ス

第二百三十六 短延期信管附榴彈ヲ以テ低射界射撃ヲ行フニ方リ近距離ニ

於テハ往々信管作用セスシテ跳飛シ或ハ信管作用スルモ跳飛シ第二彈道上ニ於テ破裂スルコトアリ又高射界射撃ニ在リテハ彈著點附近ノ土質、雜草等ノ關係ニ依リ爆煙殆ト地上ニ現レサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ砂塵ノ飛揚ニ依リテノミ僅ニ彈著點ヲ知り得ルモノナルヲ以テ觀測上注意ヲ要ス

第二百三十七 彈著ノ時機ヲ知ルハ射彈觀測上有利ナリ高射界射撃ヲ爲ス場合ニ於テ特ニ然リ

第二百三十八 補助觀測手ヲ射面ノ側方ニ出シ兩觀測所ヨリ交會法ニ依リ彈著點ノ遠近ヲ判定スル要領ハ射撃教範第二百一十一ニ據ル

第二百三十九 夜間射撃ニ於ケル射彈ノ觀測ハ交會法ニ依ル而シテ其彈著點ハ彈丸破裂ノ火光ニ依リ明瞭ニ認識シ得ルモノトス

第二百四十 精良ニシテ特ニ固定セル眼鏡ハ著シク觀測ヲ容易ナラシム然レトモ初發射彈ノ方向偏差量大ナルノ虞アルカ若ハ著シク射面ヨリ離隔シ

又ハ目標ニ接近シテ觀測スルトキハ射撃ノ當初肉眼ヲ以テ觀測スルヲ有利トスルコトアリ

最初ヨリ眼鏡ヲ用ヒテ觀測スル場合ニ於テハ補助者ヲシテ肉眼ニ依リ監視セシムルヲ有利トス

第三款 射撃開始諸元決定ノ方法

第二百四十一 射向決定ニ方リテハ基準砲ヲ定メ其射向ヲ原點ニ導キ之ヲ基準射向ト爲シ他ノ砲ノ射向ヲ之ニ平行セシムルヲ常則トス（之ヲ平行射線ト謂フ）

第二百四十二 射撃教範第七十九ヲ準用ス

第二百四十三 射向ハ左ノ方法ノ一ニ依リ原點若ハ目標ニ對シ附與ス

- 一 垂球ニ依ル方法
- 二 標桿ニ依ル方法

三 反視法

四 測角器ニ依ル方法

五 照準點ニ依ル方法

觀測所ヨリ砲ヲ通視シ得サル場合ニ於テモ任意ノ位置ニ在ル同一照準點ヲ觀測所及砲位置ヨリ同時ニ照準シ得ルトキハ觀測所ニ於テ砲隊鏡ノ零分畫ヲ以テ原點(目標)ヲ照準シ次テ照準點ヲ照準シテ原點(目標)ト照準點トノ方向角ヲ測定シ之ニ所要ノ修正ヲ施シタル分畫ヲ砲ノ回轉盤ニ裝セシメ照準點ヲ照準セシムルトキハ砲ノ射向ハ觀目線ニ平行スルモノトス

此方法ハ先ツ基準砲ニ對シ前項ノ要領ニ依リテ射向ヲ附與シ基準砲ニアラサル砲ノ射向ハ基準砲反視(射撃教範第百八十第三號第二項)ニ依リ附與スルヲ通常トス

照準點ハ成ルヘク遠隔シ且明瞭ニシテ附近ニ類似セルモノ存在セサルヲ可

トス基準砲ノ射向ヲ觀目線ニ平行ナラシムル爲修正スヘキ回轉盤分畫ハ照準點ニ至ル距離ノ籽數ヲ以テ觀砲間隔ヲ除シタル量(密位)ニ等シ而シテ照準點前方ニ在リテ觀測所砲ノ右(左)ナルトキハ方向量「イ」ヨリ修正量「ロ」ヲ減ス(加フ)ルモノトス(第十五、第十六圖)

圖 五 十 第

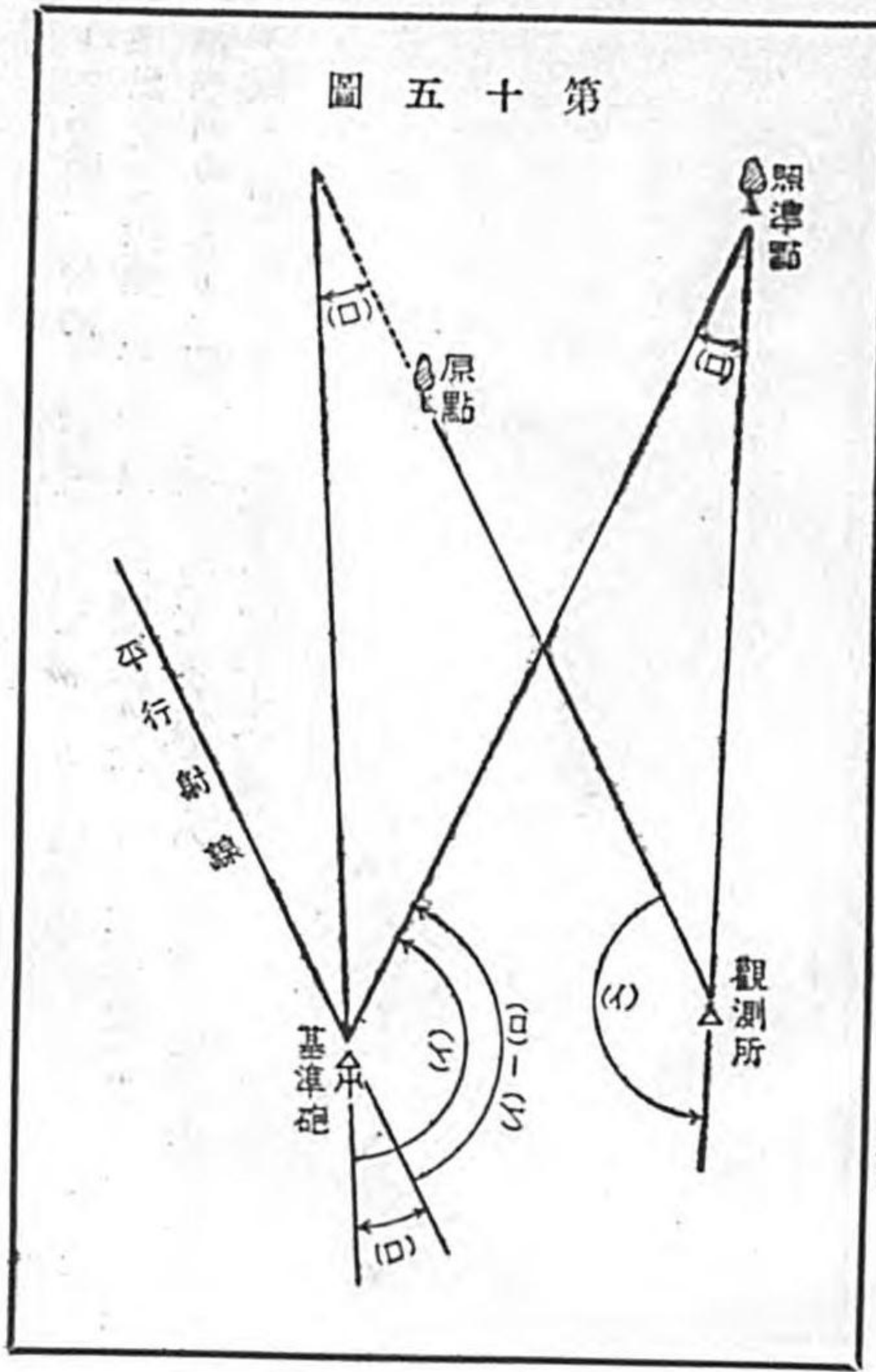
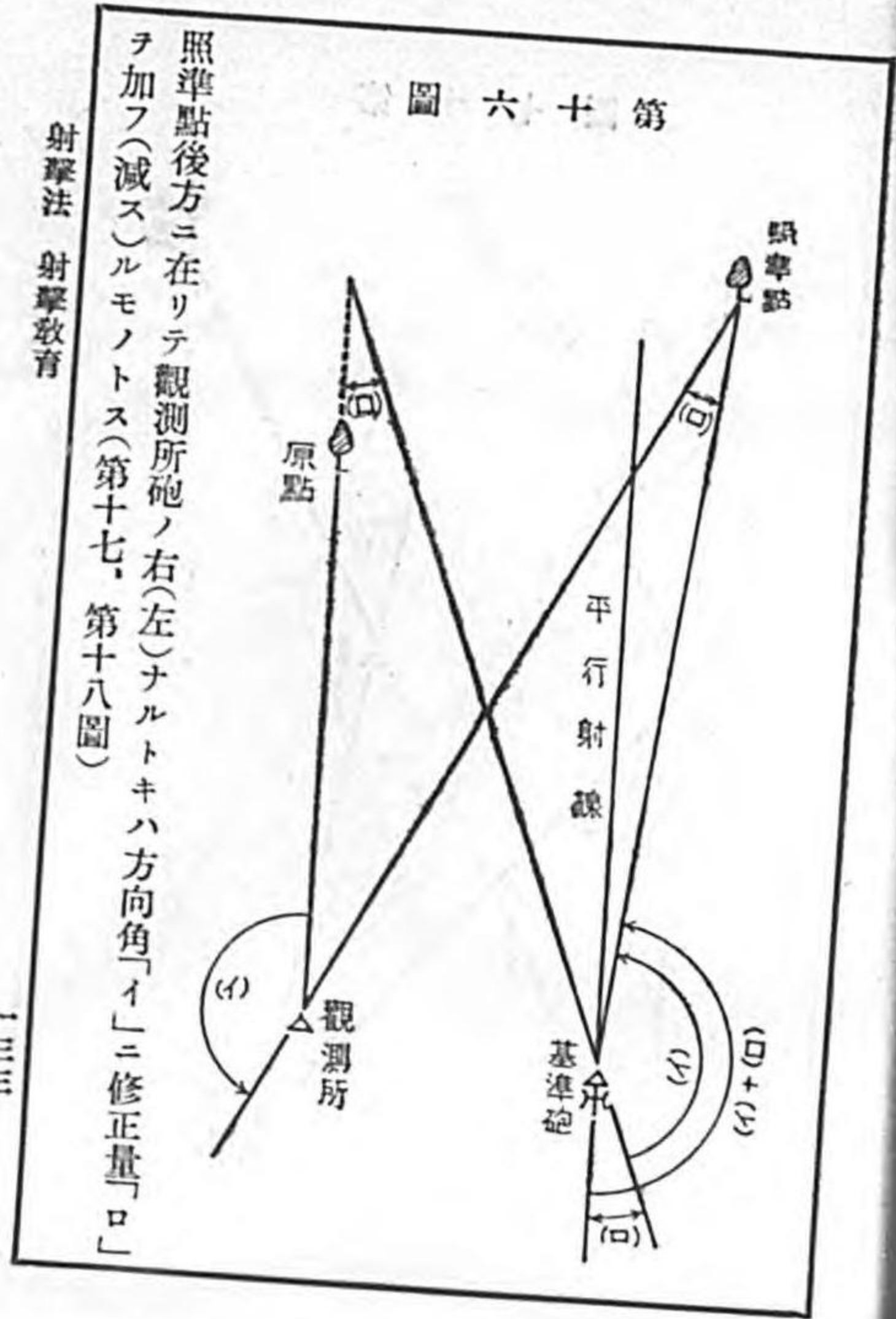


圖 六 十 第



照準點後方ニ在リテ観測所砲ノ右(左)ナルトキハ方向角「イ」ニ修正量「ロ」ヲ加フ(減ス)ルモノトス(第十七、第十八圖)

射撃法 射撃教育

圖 八十 第

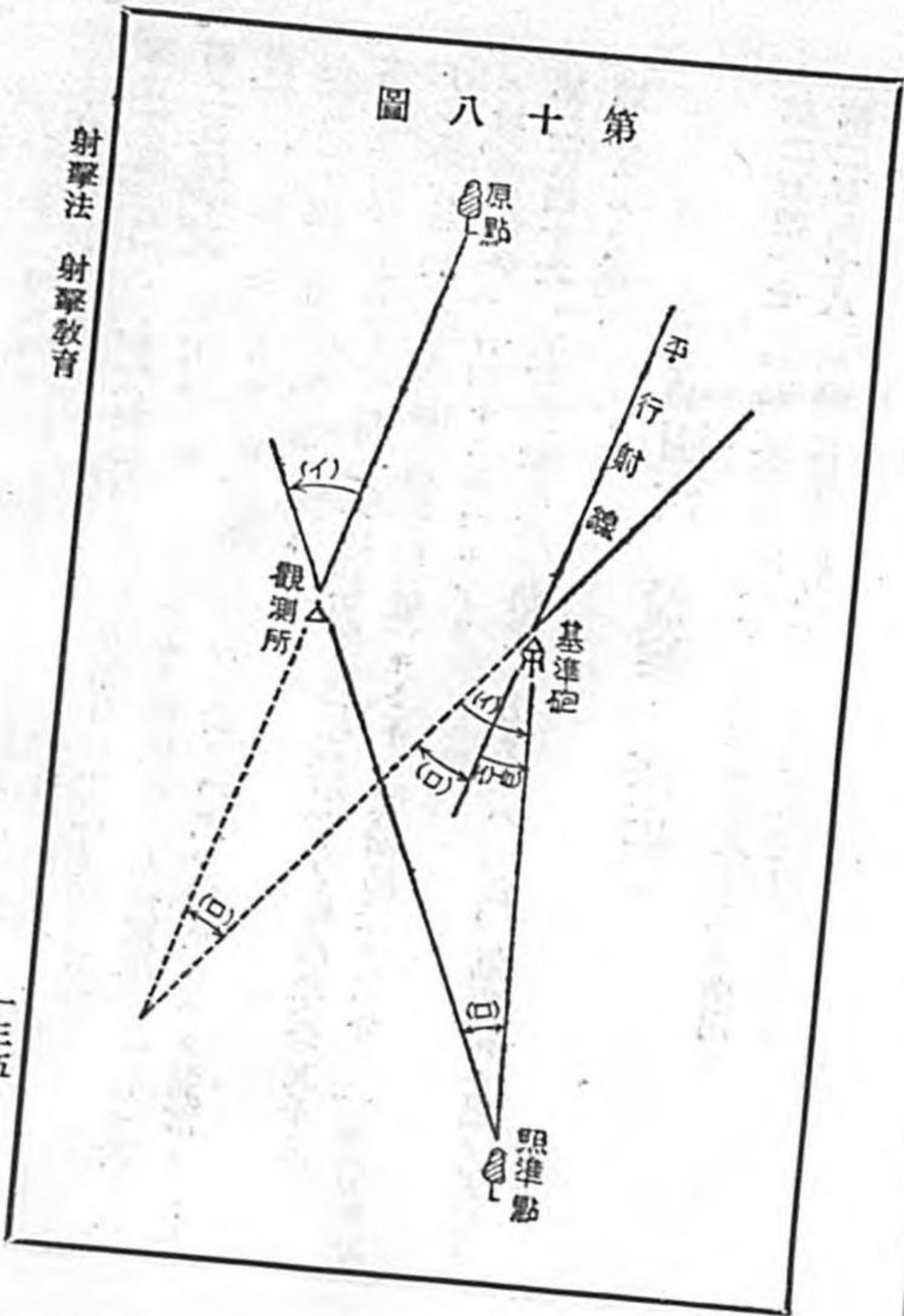
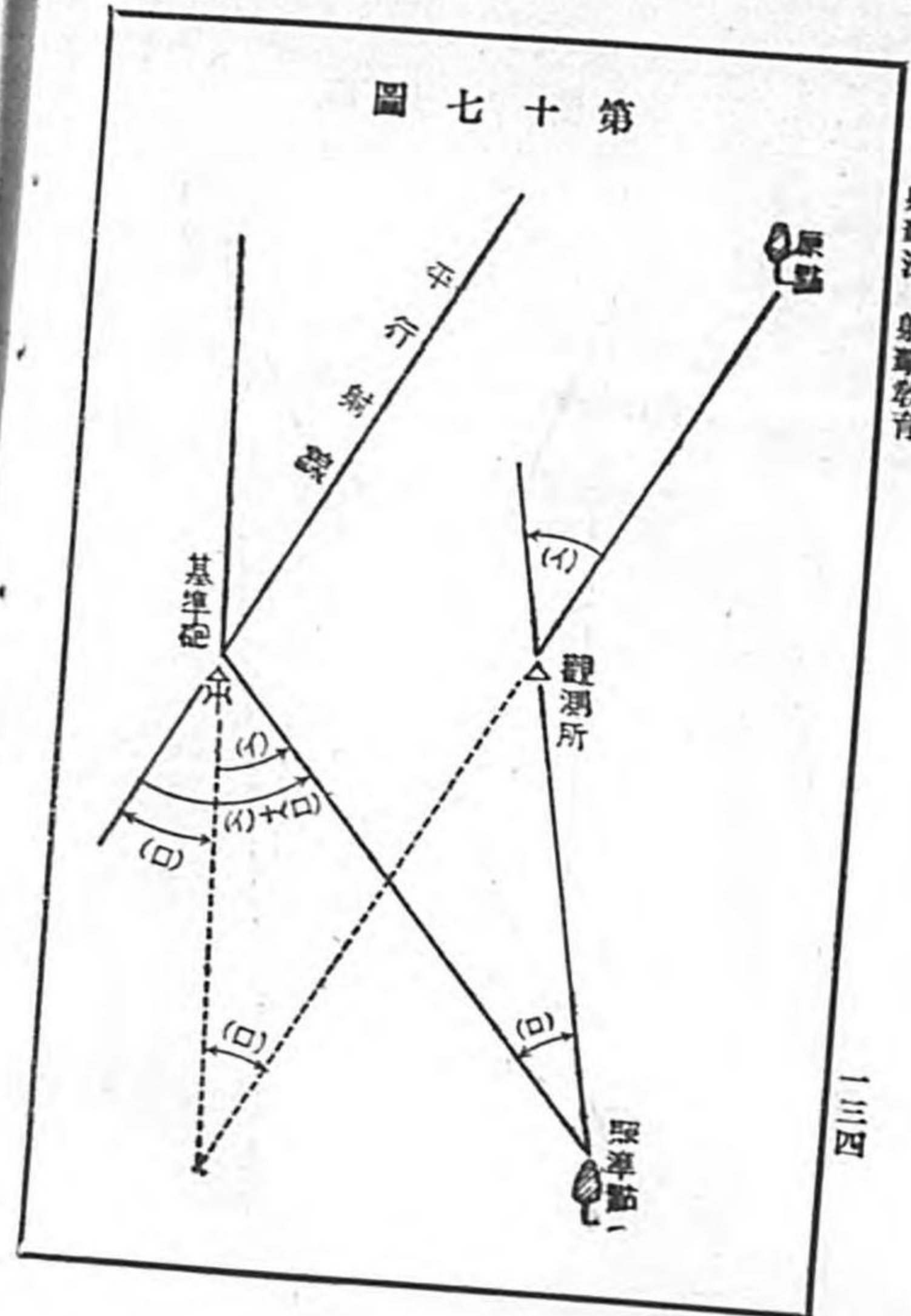


圖 七十 第



第二百四十四 射撃教範第百八十一及第百八十二ヲ準用ス
 第二百四十五 低射界射撃ヲ行フニ方リ高低角ハ直接照準ノ場合ニ於テハ通常之ヲ修正セサルモ間接照準ノ場合ニ於テハ之ヲ修正スルヲ通常トシ其正(負)ニ應シ増ス(減ク)モノトス
 高射界射撃ヲ行フニ方リテハ砲位置ト目標位置トノ標高差大(五十米以上)ナル場合ニ於テノミ目標位置高(低)キトキハ其標高差ノ二分ノ一ヲ射距離ニ増(減)スルヲ有利トスルコトアリ
 第二百四十六 射撃開始諸元ノ決定ニ方リテハ天候、氣象特ニ風ノ影響ヲ顧慮スルヲ要ス

第四款 射撃ノ修正

第二百四十七 射撃教範第百八十五乃至第百八十九ヲ準用ス
 第二百四十八 射撃教範第百九十第一乃至第三項ノ準用ス

測定試射ハ偏差量ノ判定容易ナル場合或ハ交會法ニ依リ補助觀測所ノ觀測率ヲ利用シ得ル場合ニ用ヒテ有利ナル方法ニシテ試射ノ時間ヲ短縮シ試射ノ彈ヲ減少シ得ルノ利アルモ偏差量ノ判定ヲ誤ルトキハ折半試射ニ比シ多數ノ彈藥ヲ消費スルコトアリ

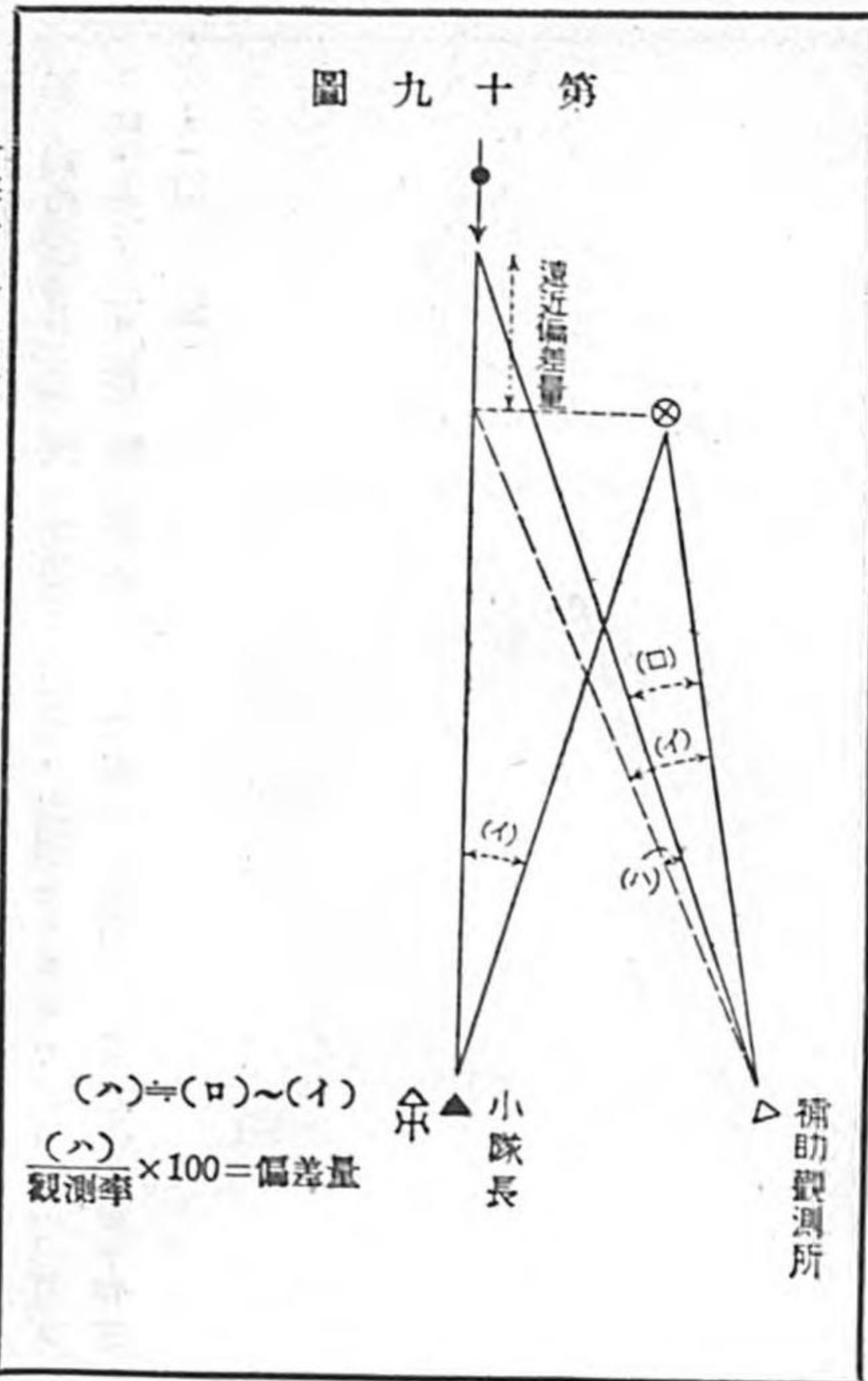
第二百四十九 射撃教範第百九十一ヲ準用ス
 第二百五十 折半試射ニ於ケル最初ノ夾叉角度ハ戰況、射距離ノ大小、射撃開始諸元決定ノ精粗、目標附近ノ地形、初發射彈ノ景況等ニ依リ異ナルモ通常二百米ヲ標準トシテ四百米ト爲スヲ可トスルコトアリ

第二百五十一 射撃教範第百九十三ヲ準用ス
 第二百五十二 折半試射ニ於ケル夾叉ノ兩極限ハ通常確認セル各二射彈ニ依リテ決定スルモノトス
 第二百五十三 射撃教範第百九十五乃至第百九十九ヲ準用ス
 第二百五十四 測定試射ハ同一射距離ヲ以テ通常二、三射彈ヲ連續發射シ

直ニ其平均偏差量ヲ修正シ概定表尺ヲ求ム而シテ觀測所ノ關係又ハ彈著點附近ノ地物ノ關係等ニ依リ直ニ射彈ノ偏差量ヲ判定シ得ル場合ノ外補助觀測手ヲ射面ノ側方ニ出シ交會法(射撃教範第二百十一)ニ依リテ先ツ射彈ノ遠近ヲ判定シ次テ兩觀測所ニ於テ觀測セル射彈ノ方向偏差量ノ差(和)ヲ補助觀測所ニ於ケル觀測率ト對照シテ彈著點ノ遠近偏差量ヲ判定スル方法ヲ用フルヲ可トス其要領左ノ如シ

- 一 兩觀測者共射彈ヲ「右(左)」ト觀測セルトキハ其方向偏差量ノ差ヲ求メ之ヲ補助觀測所ニ於ケル觀測率ト對照シテ遠近偏差量ヲ判定ス(第十九圖)

圖 九 十 第



第二百五十五 射撃教範第二百一乃至第二百四ヲ準用ス

第五款 特種ノ方法ニ依ル射撃

補助照準點ニ依ル射撃

第二百五十六 直接照準ニ依ル射撃ニ在リテモ目標ハ通常視エ難ク且爆煙ニ蔽ハルコトアルヲ以テ直接目標ヲ照準スルニ代ヘ補助照準點ニ依リ射撃スルヲ有利トスルコト多シ
補助照準點ハ成ルヘク射面ニ接近セルモノヲ選定シ之ト目標トノ方向及高低偏差量ヲ修正ス而シテ高低偏差量ノ修正ハ鏡頭ノ俯仰分畫ニ依ルモノトス

直接觀測シ得サル目標ニ對ス

ル射撃

第二百五十七 射撃教範第二百八及第二百九ヲ準用ス

圖解法ニ依ル射撃

第二百五十八 射撃教範第二百十二ヲ準用ス

觀測所陣地ヨリ離隔セル場合ノ射撃

第二百五十九 射撃教範第二百十三乃至第二百十九ヲ準用ス

夜間及煙内射撃

第二百六十 晝間豫メ目標ヲ標定シ得ル場合夜間射撃ヲ行フニハ方向觀測

ノ爲基線ヲ設置シ交會法ニ依リ補助觀測所ノ觀測率ヲ利用スル測定試射ニ依ルヲ通常トス

第二百六十一 晝間豫メ原點ニ對シ射向附與ヲ爲シ砲ヲ固定シタル場合ニ於テハ前條ノ要領ニ依リ原點ニ對スル方向觀測ノ爲基線ヲ設置シ夜間目標(火光ヲ認識シ得ル重火器又ハ探照燈ノ如キモノ)現出スルヤ兩觀測所ヨリ之ヲ標定シ補助觀測所ノ觀測率ヲ利用シテ原點ニ對スル目標ノ遠近偏差量ヲ測定シ之ヲ原點ニ至ル距離ニ加減シテ射距離ヲ決定シ之ヲ概定表尺トシテ效力射ヲ開始ス

爾後ノ射撃修正ハ目標ニ對スル觀測基線ヲ基準トシテ交會法ヲ用ヒ射撃教範第二百三ノ要領ニ依リテ行フ

晝間豫メ準備ヲ爲シ得サル場合ニ於テモ射距離ヲ概知シ且目標ノ火光ヲ十分認識シ得ルトキハ直接照準ニ依リ射撃ヲ實施シ得而シテ射撃修正ハ第一、第二項ノ要領ニ依リ行フモノトス

第二百六十二 射撃教範第一百ヲ準用ス

第二百六十三 夜間射撃ニ於ケル效力射ハ狀況ニ依リ掃射若ハ之ト級梯射撃トノ併用ニ依ルヲ有利トスルコトアリ

第二百六十四 射撃間煙ニ蔽ハルルノ虞アル場合ニ於テハ風向ヲ顧慮シ豫備ノ觀測所ヲ準備シ煙ニ蔽ハルルヤ適宜觀測所ヲ煙外ニ求メテ射撃教範第二百十三乃至第二百十九ノ要領ニ依リ射撃ヲ行フコトヲ得
此場合ニ於ケル標定點ハ第四十八ノ要領ニ依リ砲ニ近ク設置シ置クヲ要ス又煙ノ間斷ヲ利用シテ照準ヲ行ヒ或ハ射撃ノ修正ヲ行フノ著意必要ナリ

第六款 射撃豫習

第二百六十五 射撃教範第二百二十二乃至第二百二十八ヲ準用ス

第二節 準備射撃及戰鬪射撃

第二百六十六 準備射撃及戦闘射撃ノ要領ハ射撃教範第二百二十九乃至第
二百五十二(曲射歩兵砲ニ關スルモノニ限ル)ヲ準用スルモノトス

第三節 射撃場ノ警戒及危害豫防

第二百六十七 實彈射撃ニ於ケル危險區域ノ幅員ハ地形ニ依リ差異アルモ
平坦地ニ在リテハ第二十一及第二十二圖ノ如シ統監又ハ補助官ハ發射前砲
ノ方向ヲ點檢シ要スレハ修正ヲ爲サシムルコト緊要ナリ

圖一十二第
(合場ルス用使ヲ彈用代)

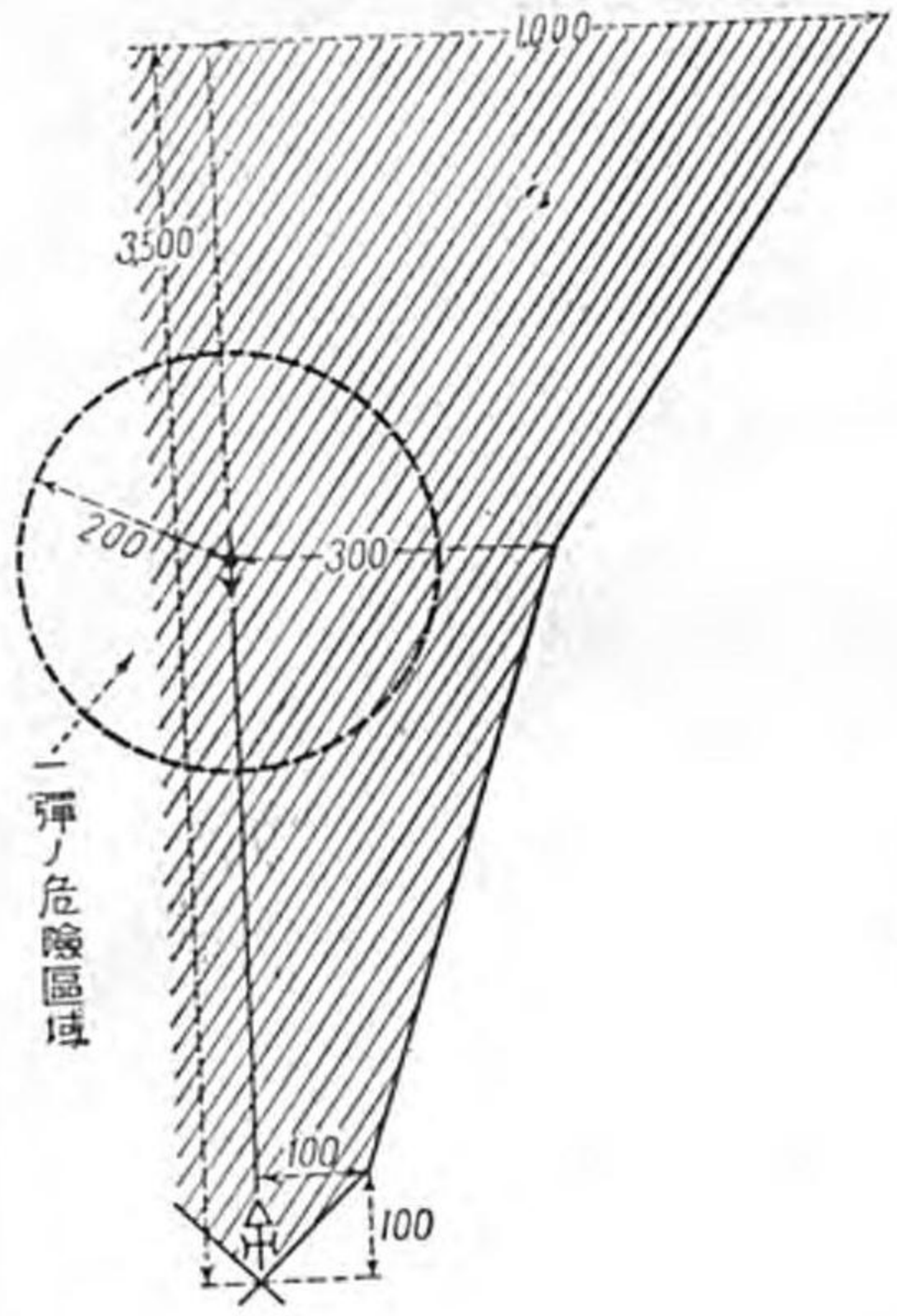
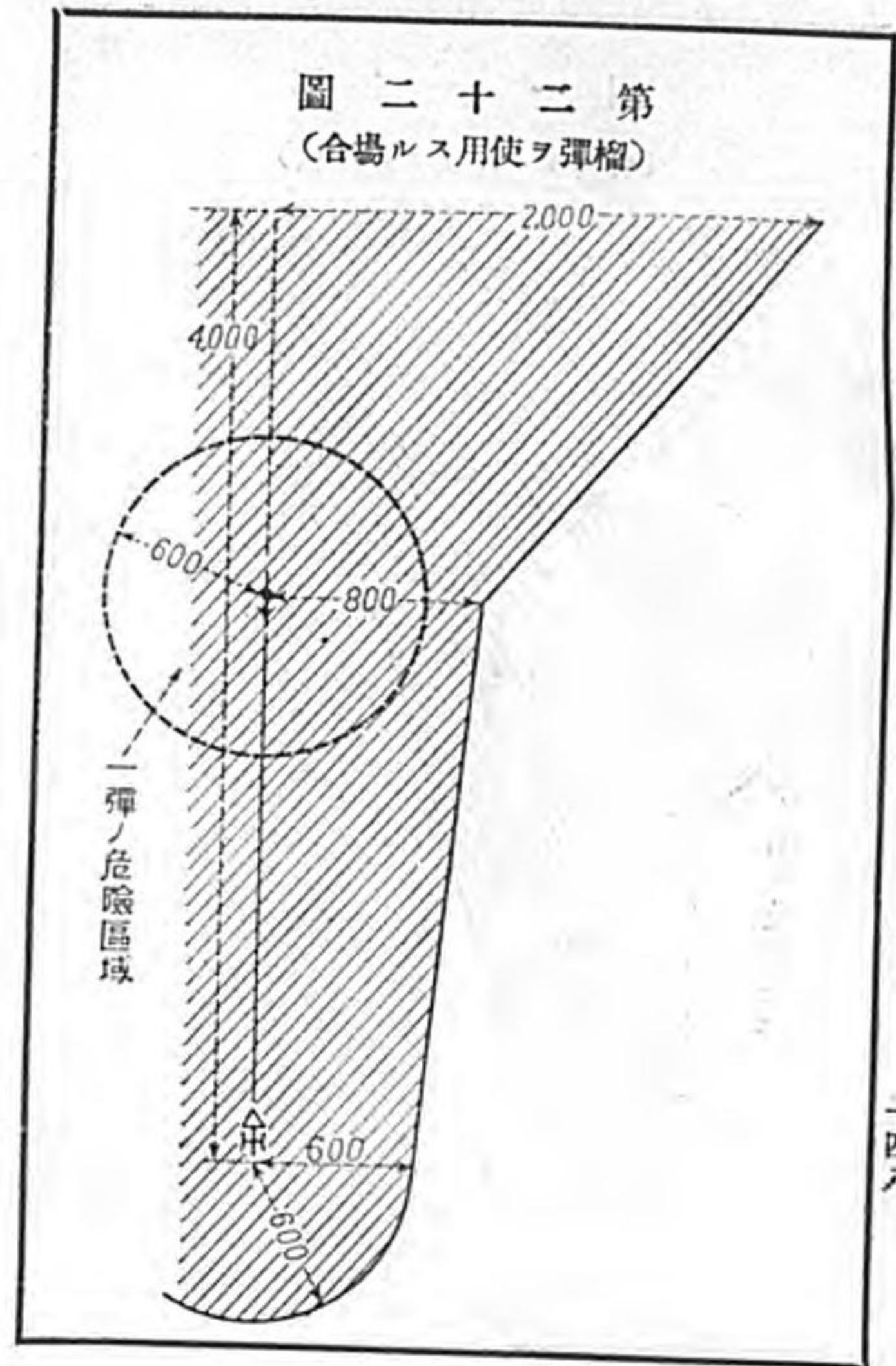


圖 二十 二 第
(合場ルス用使ヲ彈榴)



第二百六十八 射撃教範第二百七十三乃至第二百七十九ヲ準用ス
 第二百六十九 高射界射撃ニ在リテハ危害豫防上左ノ限界以上ノ射角ヲ以テ射撃セシメサルモノトス

- 一號裝藥 千六百米(一、二八六密位)
 - 二號裝藥 千百米(一、二六四密位)
 - 三號裝藥 九百米(一、一八〇密位)
 - 四號裝藥 七百米(一、一三三密位)
- 第二百七十 射撃教範第二百八十一ヲ準用ス

第三章 記 録

第二百七十一 射撃教範第二百八十四乃至第二百八十九ヲ準用ス

大隊歩兵砲教育假規定 終

大隊歩兵砲教育假規定附録

其一 馭法

第一 鞍馬ノ馭法ハ砲兵及輜重兵馭法教範ヲ準用ス

其二 照準具ノ點檢及規正

第一 照準具ハ諸種ノ原因ニ因リ使用スルニ從ヒ其精度ヲ低下スルニ至ル故ニ時々之カ點檢ヲ行ヒ照準具ヲ規正シ得サルモノハ之ヲ射擊諸元ニ修正スルモノトス

第二 照準具ノ點檢ニ方リ其誤差最小目盛ノ半量以内ナルトキハ之ヲ願慮スルヲ要セス

第三 象限儀ヲ點檢及修正スルニハ左ノ順序方法ニ依ルモノトス

附録 馭法 照準具ノ點檢及規正

- 一 象限儀ヲ零度ニ裝定ス
- 二 象限儀ヲ以テ高低照準ヲ爲ス
- 三 象限儀ヲ其位置ニ於テ反轉シ氣泡ノ位置ヲ檢シ氣泡正シク中央ニ在ラサルトキハ氣泡變位量ノ半量ハ砲身ノ俯仰ニ依リ殘量ハ象限儀ニ依リ修正ス然ル後更ニ象限儀ヲ反轉シテ之ヲ檢シ要スレハ以上ノ操作ヲ反復シ氣泡ヲシテ常ニ正シク氣泡管ノ中央ニ在ラシム此際現レタル象限儀上ノ分畫ハ其規正量ナリ
- 第四 表尺ノ高低角水準器ヲ點檢及修正スルニハ左ノ順序及方法ニ依ルモノトス
 - 一 規正セラレタル象限儀ヲ以テ砲身ヲ水平ニス
 - 二 距離分畫ノ指標ヲ零密位ノ刻線ニ一致セシメ高低ヲ零ニ裝定シタルトキ氣泡管ノ氣泡正シク管ノ中央ニ在ラサレハ規正螺桿ニ依リ之ヲ中央ニ導キ其分畫變位量ヲ以テ規正量トス

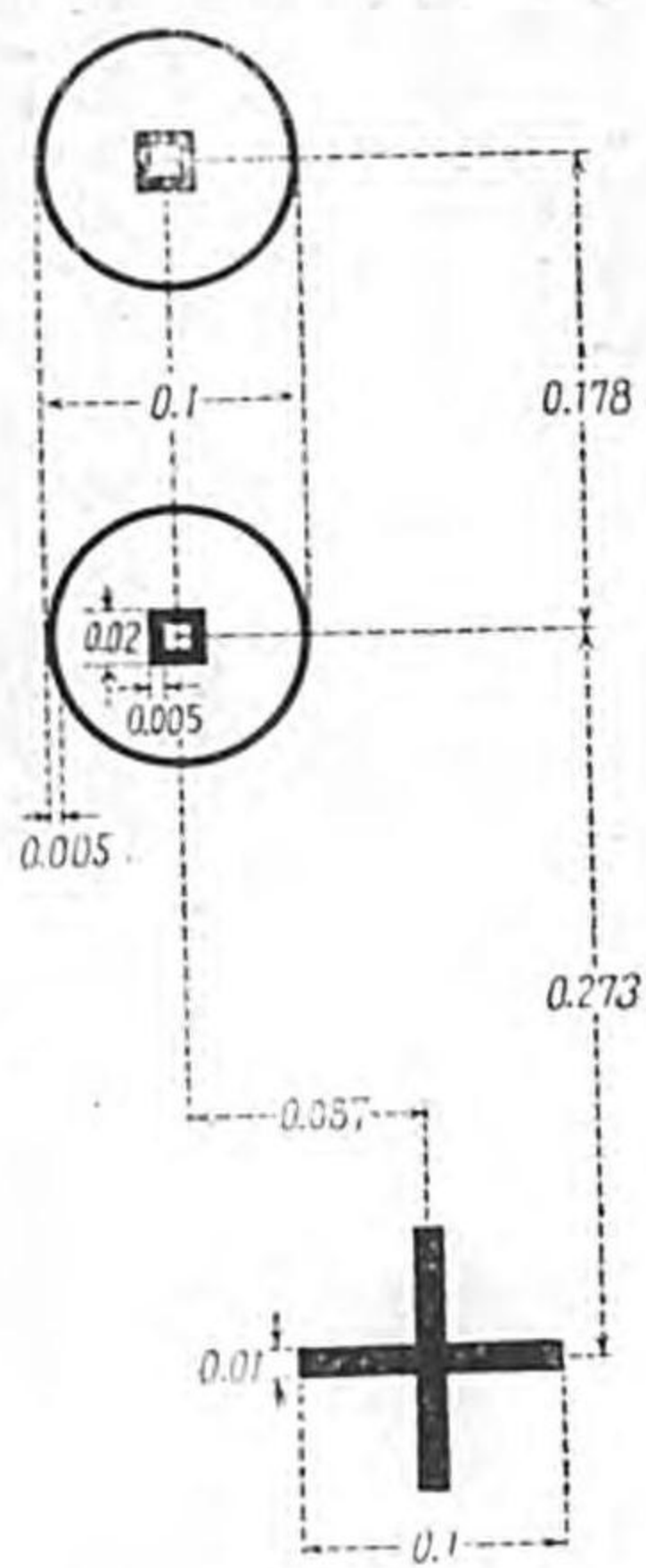
第五

- 照準線ヲ點檢及修正スルニハ左ノ順序及方法ニ依ルモノトス
 - 一 砲口帶ノ縱橫標線ニ細糸(馬尾毛ノ如キモノ)ヲ十字ニ張り空藥莢ノ爆管ヲ螺脫シ徑一乃至二耗ノ細孔ヲ穿テ紙片ヲ其細孔爆管孔ノ中央ニ位置スル如ク藥莢底面ニ貼附シテ之ヲ藥室ニ裝填ス
 - 二 俯仰分畫及回轉盤分畫ヲ零位ニ在ラシメ距離分畫ノ指標ヲ零密位ノ刻線ニ一致セシム
 - 三 以上ノ如ク準備セル砲ヲ平坦地ニ据エ其前方五十米ノ距離ニ第一圖ノ如キ視板ヲ砲ニ正對シ且十字ノ交截點概ネ砲身高ニ等シキ高サニ在ル如ク垂直ニ設置ス
 - 四 砲尾ヨリ藥莢ノ細孔ヲ通シテ砲口ノ細糸ノ交截點ヲ視視シツツ照準機ヲ操作シテ細糸ノ交截點ヲ視板ノ十字ノ交截點ニ正シク一致セシム此際照準線(眼鏡十字ノ交截點)カ視板ニ描ケル下方圓ノ方形内ニ通スレハ正シキモノトス若一致セサルトキハ俯仰轉輪及回轉盤轉輪ニ

附録 照準具ノ點檢及規正

依り照準線ヲ方形中央ニ導キ其分畫變位量ヲ以テ規正量トス
規視板ニ描ケル上方圓ハ表尺補助桿ヲ裝シタル場合ノ點檢ニ用フルモ
ノトス

附録第一圖
規視板



大隊歩兵砲教育假規定附録 終

解シ志操確實品行方正ナルモノニ之ヲ付與ス

第一、臨時祭委員以下任命

第二、臨時祭委員會

陸軍自動車操縱術技倆證明書

付與規則中改正理由書

一、内務省自動車取締令(以下取締令ト稱ス)改正ニ依リ從來ノ自動車運轉免許區分「甲種、乙種」ヲ普通、特殊、小型ニ改メラレタル爲陸軍自動車操縱術技倆證明書付與規則(以下付與規則ト稱ス)ノ技倆證明區分(乗用自動車、貨物自動車、自動二輪車)ニテハ内務省新取締令(新取締令ト稱ス)免許區分ノ何レノ技倆ヲ有スルヤ不明ナル爲之ヲ内務省新取締令ニ準シテ改正シ以下士官、兵就職上外便宜ヲ圖ル爲トセヨ



五十七

二、第一條之規定其「付與規則」之技術證明區分ノ類別

係記載スルニ準ニテ如左ニシテテ士官兵隊

ノ外附テ付スルテテ士官兵隊ノ外

練車)ニテハ内務省條規令免指區分ノ可

附發用區分(乘用自働車、貨物自働車、自働二

輪機油車附發用書)其限(免指區分)ノ外

懸、掛、小、車)ニテハ免指區分ノ外

來ノ自働車變轉免指區分「甲、乙、丙」ヲ普

一、附發用自働車取替令(免指區分)如左ニテハ

本與限中如左野由書

自働車附發用書

第一、關於發賣以下命令

昭和十一年四月敕令關於發賣遊樂器目次

陸軍自動車規則（案書改正案）

陸軍自動車操縦術技術證明書付與規則（案書改正案）

第一條 本規則ニ於テ普通自動車ト稱スルハ内燃原動機

動装置及前二輪ニ依ル操向装置ヲ具備シ車輛重量三百

六十キログラム以上ニシテ主トシテ人又ハ貨物ヲ運搬スル

構造ヲ有スル自動車ト稱スルハ小型自動車ニ非サルモノヲ謂フ

本規則ニ於テ特殊自動車ト稱スルハ普通自動車又ハ小型

自動車ニ非サル自動車ニシテ右ニ掲ケルモノヲ謂フ

第一種 牽引自動車 牽引装置ヲ有シ常ニ他ノ車

輛ヲ牽引スルモノヲ目的トスルモノヲ謂フ

第二種 トラクタ、グレーダ

第廿九條 官實施スル部隊ニ於テ將校以下士官自任官ニ概テ五
 月以上兵ニ在リテハ概テ一年以上服務シ又ハ修業シタ
 ル現役軍人ニシテ兼用自動車、特殊自動車又ハ小型自動
 車ノ操縦術、機關ノ調製及應急處置法ヲ修得シ
 各種ノ道路ニ於テ獨立ノ運轉ヲ為シ得心ヲ修得シ
 シ且自動車ニ關スル諸法規及保存取扱テ了解シ志
 操確實品行方正ナルモノニ之ヲ付與ス、四行野大ノ用
 第三條 自動車操縦術技術證明書ハ附録様式ニ依ル
 第四條 自動車操縦術技術證明書ヲ付與スヘキ者ア
 ルトキハ中隊長又ハ之ニ準スル者ハ順序ヲ經テ聯
 隊長（隊長、校長）ニ上申シ同官ヨリ之ヲ付與ス

二
 大
 隊
 對

第^五四條 第^二十條中自動車操縱教育ヲ實施スル部隊
トアルハ左ノ諸部隊ニ該當ス

戰車隊

野戰重砲兵第七、第八聯隊

飛行隊

氣球隊

自動車隊

裝甲自動車隊

自動車操縱教育ヲ特ニ實施スル步兵隊、野砲兵隊、

工兵隊及輜重兵隊

陸軍歩兵學校

陸軍野戰砲兵學校

陸軍重砲兵學校

市志津陸軍飛行學校

陸軍自動車學校

自備車

屏

森

陸軍重砲兵第九師

砲

陸軍重砲兵第九師

陸軍重砲兵第九師

附録様式

第 號

普通自動車 (特殊自動車) (小型自動車)
兼用自動車 (自動貨車) (自動三輪車) 操縦術技術者證明書

隊號

官 (等級)

位 氏

名

右者兼用自動車 (特殊自動車) (小型自動車)
調整及應急處置法ヲ修得シ各種ノ道路ニ於テ確實ニ
運轉シ得ルノ技術ヲ有スル者ナルヲ證ス

昭和

年

月

日

職官位勲功爵氏

名職印

航教第一二〇九號

二六五

飛行機操縦教育假規定ニ關スル件止申請

昭和十年四月四日

陸軍航空本部長

堀

丈夫

陸軍大臣 林銑十郎 殿

別冊ノ如ク航空事故調査規定ヲ定メ度キニ就キ飛行機操縦教育假規定第五篇第二章第二節事故報告ノ部ヲ廢止致シ度止申請

陸軍航空本部
長空陸軍航空部印



陸



別冊
四月十七日

參 二六五 一

航教第 二八五號

航空事故調查規定施行ノ件通牒

陸軍航空本部長 堀 丈夫

陸軍次官 橋 本 虎之助 殿

陸普第二、〇八一號ヲ以テ認可相成タル飛行機操縦教育假規定第五篇第二章第二節事故報告ノ部廢止竝航空事故調查規定施行ノ件ヲ達シタルニ付通牒ス

追而左記ノ通送付ス尙關係各部ニハ直接通牒セシニ付申添フ

左 記

航空事故調查規定

八 部



航空事故調査規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

航空事故調査規定ヲ本書ノ通定ム

昭和十年四月十五日

陸軍航空本部長

堀

丈

夫

航空事故調查規定目次

第一章 通 則

第二章 航空事故調查委員ノ編成及調查要領

第三章 報 告

第四章 審査及同要旨通報

第一章 通則

第一條

航空事故調査ノ目的ハ事故發生ノ原因ヲ闡明シ以テ將來同一原因ニ因ル事故ノ絶滅ヲ期シ制式、製作、検査、教育、演習、各種技術、同工術等ニ關スル改善進歩ニ資スルニ在リ

前項ノ調査ニ方リテハ其原因ヲ綿密ニ探究シ嚴正ニ批判シ以テ判決ノ正鵠ヲ逸セサルヲ要ス

第二條

航空事故ヲ惹起シ左ノ一項ニ該當スル場合ニハ部隊長ハ航空事故調査委員ヲ任命シ調査ヲ行ハシムルモノトス

- 一、飛行機、氣球ニ大ナル破損ヲ生シ使用ノ見込ナキトキ
- 二、搭乗人員ニ死傷ヲ生シ又ハ飛行機、氣球ニ依リ搭乗者以外ノ者ニ危害ヲ生シタルトキ

- 三、危險ナリト判定スル故障ヲ發生セシトキ
- 四、事故比較的輕易ナルモ將來ノ爲特ニ必要ト認メタルトキ

二

第二章 航空事故調査委員ノ編成及調査要領

第三條

委員ハ事故ノ種類ニ應シ調査ニ必要ナル將校、同相當官、陸軍技師若干名ヲ以テ編成シ其先任將校ヲ以テ長トス

委員長ハ委員ヲ指揮シ第一條ノ趣旨ニ基キ其事故ヲ調査シ先ツ航空事故要報作製ニ必要ナル資料ヲ、次テ航空事故詳報作製ニ必要ナル資料ヲ部隊長ニ報告スルモノトス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各分擔業務ノ調査ヲ行フモノトス

第四條

陸軍航空本部長ハ必要ト認メタル場合又ハ部隊長ノ上申ニ基

キ航空事故調査委員ヲ任命シ増加派遣スルコトアリ

第五條 前條ノ増加派遣者ハ部隊長ノ任命セシ委員長ノ區處ヲ受ケ調査ニ從事スルヲ通常トス

第六條 事故發生後應急已ムヲ得サルモノノ外ハ總テ調査完了マテ現狀ノ儘之ヲ保存スルモノトス之カ爲要スレハ特ニ監視者ヲ附スルモノトス

第七條 破損ノ狀況及調査ノ爲參考トナルヘキモノハ成ルヘク要圖又ハ寫眞トシ之ヲ詳報ニ添附シ尙原因調査上特ニ必要ト認ムヘキ部分ハ報告ト共ニ現品ヲ提出スルモノトス

第八條 原因不明ニシテ判決シ能ハサル場合ニ在リテモ其狀況及經緯ヲ詳細ニ記載シ特ニ原因推定ノ憑據ヲ明確ナラシムルコトニ勉ムルヲ要ス

第三章 報告

四

第九條 本規定ニ據ル航空事故報告トハ航空事故急報、航空事故要報、航空事故詳報、航空事故特別報告及航空事故年報ヲ總稱ス

第十條 第二條一、二ノ航空事故ヲ惹起セル場合ニハ部隊長ハ直ニ陸軍

航空本部長ニ航空事故急報ヲ爲スト共ニ航空事故要報ヲ次テ航空事故詳報ヲ同官ニ提出スルモノトス

但第二條三、四ノ事故ニ對シテハ前項報告ノ一部ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條 航空事故急報ハ電報又ハ電話等適宜ノ方法ヲ以テ急報スルモノトス

航空事故急報ニハ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス

- 一、事故發生日時
- 二、事故發生場所
- 三、演習ノ種類
- 四、機種(型式)番號
- 五、搭乗者官氏名
- 六、人員器材ノ損傷程度
- 七、其他特ニ必要ト認ムル事項

第十二條 航空事故要報ハ勉メテ事故發生當日之ヲ作製シ發送スルモ

ノトス

航空事故要報ニハ事故ノ程度ニ應シ通常左ノ事項ヲ含マシムル
 モノトス然レトモ事故發生現地遠隔セルカ又ハ情況不明ノ際ハ
 報告事項ノ完備ニ拘泥スルコトナク機ヲ逸セス提出スルヲ要ス

- 一、事故發生年月日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、機種(型式)及番號
 - 四、搭乗者官氏名
 - 五、任務及事故發生ノ概況
 - 六、搭乗者ノ受傷程度
 - 七、器材ノ損傷程度
 - 八、處置ノ大要
 - 九、其他必要ト認ムル事項
- 航空事故要報ニハ事故發生現地遠隔セルカ又ハ其原因専門的調査ヲ要スル爲規定ノ日次内ニ航空事故詳報ヲ提出シ難キヲ豫想セシトキハ其旨附記スルヲ要ス

第十三條

航空事故詳報ハ事故發生後概ネ十日以内ニ六部ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故詳報ハ附表第一ノ様式ニ據リ記載シ尙要スレハ左ノ事項ヲ記述添附スルモノトス

- 一、 事故者ノ伎倆及性格竝將來ノ見込等ニシテ事故ニ關聯シ特ニ必要ト認ムル事項
- 二、 事故發生ノ狀態及其經過ニシテ詳述ヲ要スルモ規定欄内ニ記述シ得サル事項
- 三、 事故者及關係者ニ就キ調査セシ事項
- 四、 地形天候氣象等ニシテ特ニ事故ニ關係アル事項
- 五、 事故者ノ體驗及感想等ニシテ特ニ將來參考トナルヘキ事項
- 六、 其他必要ト認ムル事項

航空事故詳報ニハ航空事故ニ關聯セル賞罰ハ必ス記載スルモ細部ニ互ラサルモノトス

落下傘ヲ使用セシトキハ附表第二ヲモ併セ添附スルヲ要ス

第十四條 秘密ニ屬スル器材又ハ事故ノ原因秘密ニ屬スル航空事故詳報ハ航空事故特別報告ト爲シ二部提出スルモノトス

第十五條 各部隊ハ毎年十二月三十一日現在調ヲ以テ航空事故年報ヲ作製シ翌年二月末日マテニ陸軍航空本部ニ三部提出スルモノトス

其様式左ノ如シ

事故生起月日	機種(型式)	原因	本部判決ニ對スル處置	改善結果	將來ニ關スル意見

第四章 審査及同要旨通報

第十六條 陸軍航空本部ニ於テハ航空事故審査委員ヲ設ケ各部隊ニ於テ惹起セシ航空事故ニ關スル諸報告及送付セラレシ現品等ニ就キ審査ヲ行フモノトス而シテ審査上現地ノ踏査又ハ更ニ他ノ資料ノ蒐集ヲ要スルトキハ所要ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

第十七條 陸軍航空本部ハ審査ノ結果必要ナル事項ヲ關係各部隊官衙

第十十二通報

本報は、本邦の事情、海外の事情、及び各種の新聞記事、を採録し、其の要を編輯し、本邦の新聞記者、及び海外の新聞記者、に供給する。其の編輯は、本邦の新聞記者、及び海外の新聞記者、の意見を採録し、其の要を編輯し、本邦の新聞記者、及び海外の新聞記者、に供給する。其の編輯は、本邦の新聞記者、及び海外の新聞記者、の意見を採録し、其の要を編輯し、本邦の新聞記者、及び海外の新聞記者、に供給する。

第四号 南洋の事情

南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情
南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情
南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情
南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情	南洋の事情

附表第一 (規格B四號和紙白紙上)

式	機第	號航空事故詳報	年 月 日		部 隊 名	調 査 委 員 長	指 導 者	搭 乘 者 經 歷	器 材				事 故 發 生 日 時	事 故 發 生 場 所	天 候 氣 象	任 務	事 故 發 生 狀 態	原 因	理 由	處 置	將 來 ニ 關 ス ル 意 見	摘 要	
			官 氏 名	受 傷 程 度					操 縱 (搭 乘) 時 間	事 故 前 一 月 間 操 縱 時 間 同 數	區 分	機 體											發 動 機

記載上ノ注意

- 一、關係ナキ事項ハ省略シ必要ノ欄ハ適宜増大スルモノトス
- 二、氣球事故ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス
- 三、原因ハ概ネ左ノ區分ニ依リ記載スルヲ要ス
軍紀、指導、航法、操縱、器材、器材整備、器材取扱、不可抗力、體質、天候氣象、地形地物、其他
- 四、搭乗者殉職ノ場合ハ特ニ原籍地ヲ摘要欄ニ記スルモノトス
- 五、器材ノ損傷ハ大、中、小二區分シ記載スルモノトス
- 六、故障部品ハ番號、検査印等ヲ調査記載スルヲ要ス

附表第二

- 一、落下傘ノ種類、製作年月日及履歴
 - 二、事故發生時ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時マテノ飛行機ノ状態
 - 三、事故發生時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 四、飛行機ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 五、操縦者、同乗者カ飛出ノ際開傘ハ自動索、手動索ノ何レヲ使用セシヤ
 - 六、落下傘ヲ折疊ミタル年月日、場所、折疊者竝其状態
 - 七、落下傘ノ降下状況
 - 八、著陸時ノ落下傘ノ状況
1. 破損箇所及其状況

航空事故調査規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

航空事故調査規定ヲ本書ノ通定ム

昭和十年四月十五日

陸軍航空本部長

堀

丈

夫

航空事故調查規定目次

第一章 通 則

第二章 航空事故調查委員ノ編成及調査要領

第三章 報 告

第四章 審査及同要旨通報

第一章 通則

第一條 航空事故調査ノ目的ハ事故發生ノ原因ヲ闡明シ以テ將來同一原因ニ因ル事故ノ絶滅ヲ期シ制式、製作、検査、教育、演習、各種技術、同工術等ニ關スル改善進歩ニ資スルニ在リ

前項ノ調査ニ方リテハ其原因ヲ綿密ニ探究シ嚴正ニ批判シ以テ判決ノ正鵠ヲ逸セサルヲ要ス

第二條 航空事故ヲ惹起シ左ノ一項ニ該當スル場合ニハ部隊長ハ航空

事故調査委員ヲ任命シ調査ヲ行ハシムルモノトス

- 一、飛行機、氣球ニ大ナル破損ヲ生シ使用ノ見込ナキトキ
- 二、搭乗人員ニ死傷ヲ生シ又ハ飛行機、氣球ニ依リ搭乗者以外ノ者ニ危害ヲ生シタルトキ

- 三、危險ナリト判定スル故障ヲ發生セシトキ
- 四、事故比較的輕易ナルモ將來ノ爲特ニ必要ト認メタルトキ

二

第二章 航空事故調査委員ノ編成及調査要領

第三條

委員ハ事故ノ種類ニ應シ調査ニ必要ナル將校、同相當官、陸軍技師若干名ヲ以テ編成シ其先任將校ヲ以テ長トス

委員長ハ委員ヲ指揮シ第一條ノ趣旨ニ基キ其事故ヲ調査シ先ツ航空事故要報作製ニ必要ナル資料ヲ、次テ航空事故詳報作製ニ必要ナル資料ヲ部隊長ニ報告スルモノトス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各分擔業務ノ調査ヲ行フモノトス

第四條 陸軍航空本部長ハ必要ト認メタル場合又ハ部隊長ノ上申ニ基

キ航空事故調査委員ヲ任命シ増加派遣スルコトアリ

第五條 前條ノ増加派遣者ハ部隊長ノ任命セシ委員長ノ區處ヲ受ケ調査ニ従事スルヲ通常トス

第六條 事故發生後應急已ムヲ得サルモノノ外ハ總テ調査完了マテ現狀ノ儘之ヲ保存スルモノトス之カ爲要スレハ特ニ監視者ヲ附スルモノトス

第七條 破損ノ狀況及調査ノ爲參考トナルヘキモノハ成ルヘク要圖又ハ寫眞トシ之ヲ詳報ニ添附シ尙原因調査上特ニ必要ト認ムヘキ部分ハ報告ト共ニ現品ヲ提出スルモノトス

第八條 原因不明ニシテ判決シ能ハサル場合ニ在リテモ其狀況及經緯ヲ詳細ニ記載シ特ニ原因推定ノ憑據ヲ明確ナラシムルコトニ勉ムルヲ要ス

第三章 報告

四

第九條 本規定ニ據ル航空事故報告トハ航空事故急報航空事故要報航空事故詳報航空事故特別報告及航空事故年報ヲ總稱ス

第十條 第二條一、二ノ航空事故ヲ惹起セル場合ニハ部隊長ハ直ニ陸軍航空本部長ニ航空事故急報ヲ爲スト共ニ航空事故要報ヲ次テ航空事故詳報ヲ同官ニ提出スルモノトス
但第二條三、四ノ事故ニ對シテハ前項報告ノ一部ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條 航空事故急報ハ電報又ハ電話等適宜ノ方法ヲ以テ急報スルモノトス
航空事故急報ニハ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス

- 一、事故發生日時
- 二、事故發生場所
- 三、演習ノ種類
- 四、機種(型式)番號
- 五、搭乗者官氏名
- 六、人員器材ノ損傷程度
- 七、其他特ニ必要ト認ムル事項

第十二條 航空事故要報ハ勉メテ事故發生當日之ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故要報ニハ事故ノ程度ニ應シ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス然レトモ事故發生現地遠隔セルカ又ハ情況不明ノ際ハ報告事項ノ完備ニ拘泥スルコトナク機ヲ逸セス提出スルヲ要ス

- 一、事故發生年月日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、機種(型式)及番號
 - 四、搭乗者官氏名
 - 五、任務及事故發生ノ概況
 - 六、搭乗者ノ受傷程度
 - 七、器材ノ損傷程度
 - 八、處置ノ大要
 - 九、其他必要ト認ムル事項
- 航空事故要報ニハ事故發生現地遠隔セルカ又ハ其原因専門的調査ヲ要スル爲規定ノ日次内ニ航空事故詳報ヲ提出シ難キヲ豫想セシトキハ其旨附記スルヲ要ス

第十三條 航空事故詳報ハ事故發生後概ネ十日以内ニ六部ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故詳報ハ附表第一ノ様式ニ據リ記載シ尙要スレハ左ノ事項ヲ記述添附スルモノトス

一、事故者ノ伎倆及性格並將來ノ見込等ニシテ事故ニ關聯シ特ニ必要ト認ムル事項

二、事故發生ノ狀態及其經過ニシテ詳述ヲ要スルモ規定欄内ニ記述シ得サル事項

三、事故者及關係者ニ就キ調査セシ事項

四、地形、天候、氣象等ニシテ特ニ事故ニ關係アル事項

五、事故者ノ體驗及感想等ニシテ特ニ將來參考トナルヘキ事項

六、其他必要ト認ムル事項

航空事故詳報ニハ航空事故ニ關聯セル賞罰ハ必ス記載スルモ細部ニ互ラサルモノトス

落下傘ヲ使用セシトキハ附表第二ヲモ併セ添附スルヲ要ス

第十四條 秘密ニ屬スル器材又ハ事故ノ原因秘密ニ屬スル航空事故詳報ハ航空事故特別報告ト爲シ二部提出スルモノトス

第十五條 各部隊ハ毎年十二月三十一日現在調ヲ以テ航空事故年報ヲ作製シ翌年二月末日マテニ陸軍航空本部ニ三部提出スルモノトス

其様式左ノ如シ

第四章 審査及同要旨通報

事故生起月日	機種型式	原因	本部判決ニ對スル處置	改善結果	將來ニ關スル意見

第十六條 陸軍航空本部ニ於テハ航空事故審査委員ヲ設ケ各部隊ニ於テ惹起セシ航空事故ニ關スル諸報告及送付セラレシ現品等ニ就キ審査ヲ行フモノトス而シテ審査上現地ノ踏査又ハ更ニ他ノ資料ノ蒐集ヲ要スルトキハ所要ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

第十七條 陸軍航空本部ハ審査ノ結果必要ナル事項ヲ關係各部隊官衙

附表第一 (規格B四號和紙白紙上)

式	機第	號航空事故詳報	年 月 日		部 隊 名	調查委員 長 委員	指導者 演習指揮官 直接指導者	搭乘者經歷	器 材				事故發生日時	事故發生場所	天候氣象	任 務	事故發生狀態	原 因	理 由	處 置	將來ニ關スル意見	摘 要
			官 氏 名	年 齡					受 傷 程 度	操 縱 (搭 乘) 時 間	破 損 程 度	番 種										

記載上ノ注意

- 一、關係ナキ事項ハ省略シ必要ノ欄ハ適宜増大スルモノトス
- 二、氣球事故ハ本様式ニ準シ調製スルモノトス
- 三、原因ハ概ネ左ノ區分ニ依リ記載スルヲ要ス
軍紀、指導、航法、操縱、器材、器材整備、器材取扱、不可抗力、體質、天候氣象、地形地物、其他
- 四、搭乘者殉職ノ場合ハ特ニ原籍地ヲ摘要欄ニ記スルモノトス
- 五、器材ノ損傷ハ大、中、小二區分シ記載スルモノトス
- 六、故障部品ハ番號、検査印等ヲ調査記載スルヲ要ス

附表第二

- 一、落下傘ノ種類、製作年月日及履歴
 - 二、事故發生時ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時マテノ飛行機ノ状態
 - 三、事故發生時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 四、飛行機ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 五、操縦者、同乗者カ飛出ノ際開傘ハ自動索、手動索ノ何レヲ使用セシヤ
 - 六、落下傘ヲ折疊ミタル年月日、場所、折疊者竝其状態
 - 七、落下傘ノ降下状況
 - 八、著陸時ノ落下傘ノ状況
1. 破損箇所及其状況

航空事故調査規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

航空事故調査規定ヲ本書ノ通定ム

昭和十年四月十五日

陸軍航空本部長

堀 丈 夫

航空事故調查規定目次

第一章 通 則

第二章 航空事故調查委員ノ編成及調查要領

第三章 報 告

第四章 審査及同要旨通報

第一章 通則

第一條

航空事故調査ノ目的ハ事故發生ノ原因ヲ闡明シ以テ將來同一原因ニ因ル事故ノ絶滅ヲ期シ制式、製作、検査、教育、演習、各種技術、同工術等ニ關スル改善進歩ニ資スルニ在リ

前項ノ調査ニ方リテハ其原因ヲ綿密ニ探究シ嚴正ニ批判シ以テ判決ノ正鵠ヲ逸セサルヲ要ス

第二條

航空事故ヲ惹起シ左ノ一項ニ該當スル場合ニハ部隊長ハ航空事故調査委員ヲ任命シ調査ヲ行ハシムルモノトス

- 一、飛行機、氣球ニ大ナル破損ヲ生シ使用ノ見込ナキトキ
- 二、搭乗人員ニ死傷ヲ生シ又ハ飛行機、氣球ニ依リ搭乗者以外ノ者ニ危害ヲ生シタルトキ

- 三、危險ナリト判定スル故障ヲ發生セシトキ
- 四、事故比較的輕易ナルモ將來ノ爲特ニ必要ト認メタルトキ

二

第二章 航空事故調査委員ノ編成及調査要領

第三條

委員ハ事故ノ種類ニ應シ調査ニ必要ナル將校、同相當官、陸軍技師若干名ヲ以テ編成シ其先任將校ヲ以テ長トス

委員長ハ委員ヲ指揮シ第一條ノ趣旨ニ基キ其事故ヲ調査シ先ツ航空事故要報作製ニ必要ナル資料ヲ次テ航空事故詳報作製ニ必要ナル資料ヲ部隊長ニ報告スルモノトス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各分擔業務ノ調査ヲ行フモノトス

第四條 陸軍航空本部長ハ必要ト認メタル場合又ハ部隊長ノ上申ニ基

キ航空事故調査委員ヲ任命シ増加派遣スルコトアリ

第五條 前條ノ増加派遣者ハ部隊長ノ任命セシ委員長ノ區處ヲ受ケ調査ニ従事スルヲ通常トス

第六條 事故發生後應急已ムヲ得サルモノノ外ハ總テ調査完了マテ現狀ノ儘之ヲ保存スルモノトス之カ爲要スレハ特ニ監視者ヲ附スルモノトス

第七條 破損ノ狀況及調査ノ爲參考トナルヘキモノハ成ルヘク要圖又ハ寫眞トシ之ヲ詳報ニ添附シ尙原因調査上特ニ必要ト認ムヘキ部分ハ報告ト共ニ現品ヲ提出スルモノトス

第八條 原因不明ニシテ判決シ能ハサル場合ニ在リテモ其狀況及經緯ヲ詳細ニ記載シ特ニ原因推定ノ憑據ヲ明確ナラシムルコトニ勉ムルヲ要ス

第三章 報告

四

第九條

本規定ニ據ル航空事故報告トハ航空事故急報航空事故要報、航空事故詳報、航空事故特別報告及航空事故年報ヲ總稱ス

第十條

第二條一、二ノ航空事故ヲ惹起セル場合ニハ部隊長ハ直ニ陸軍

航空本部長ニ航空事故急報ヲ爲スト共ニ航空事故要報ヲ次テ航空事故詳報ヲ同官ニ提出スルモノトス

但第二條三、四ノ事故ニ對シテハ前項報告ノ一部ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條

航空事故急報ハ電報又ハ電話等適宜ノ方法ヲ以テ急報スルモノトス

航空事故急報ニハ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス

第十二條

航空事故要報ハ勉メテ事故發生當日之ヲ作製シ發送スルモ

ノトス

航空事故要報ニハ事故ノ程度ニ應シ通常左ノ事項ヲ含マシムル

モノトス然レトモ事故發生現地遠隔セルカ又ハ情況不明ノ際ハ

報告事項ノ完備ニ拘泥スルコトナク機ヲ逸セス提出スルヲ要ス

五

一、 事故發生日時

二、 事故發生場所

三、 演習ノ種類

四、 機種型式番號

五、 搭乗者官氏名

六、 人員器材ノ損傷程度

七、 其他特ニ必要ト認ムル事項

- 一、事故發生年月日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、機種(型式)及番號
 - 四、搭乗者官氏名
 - 五、任務及事故發生ノ概況
 - 六、搭乗者ノ受傷程度
 - 七、器材ノ損傷程度
 - 八、處置ノ大要
 - 九、其他必要ト認ムル事項
- 航空事故要報ニハ事故發生現地遠隔セルカ又ハ其原因専門的調査ヲ要スル爲規定ノ日次内ニ航空事故詳報ヲ提出シ難キヲ豫想セシトキハ其旨附記スルヲ要ス

第十三條 航空事故詳報ハ事故發生後概ネ十日以内ニ六部ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故詳報ハ附表第一ノ様式ニ據リ記載シ尙要スレハ左ノ事項ヲ記述添附スルモノトス

- 一、事故者ノ伎倆及性格竝將來ノ見込等ニシテ事故ニ關聯シ特ニ必要ト認ムル事項
- 二、事故發生ノ狀態及其經過ニシテ詳述ヲ要スルモ規定欄内ニ記述シ得サル事項
- 三、事故者及關係者ニ就キ調査セシ事項
- 四、地形、天候、氣象等ニシテ特ニ事故ニ關係アル事項
- 五、事故者ノ體驗及感想等ニシテ特ニ將來參考トナルヘキ事項
- 六、其他必要ト認ムル事項

航空事故詳報ニハ航空事故ニ關聯セル賞罰ハ必ス記載スルモ細部ニ互ラサルモノトス

落下傘ヲ使用セシトキハ附表第二ヲモ併セ添附スルヲ要ス

第十四條 秘密ニ屬スル器材又ハ事故ノ原因秘密ニ屬スル航空事故詳報ハ航空事故特別報告ト爲シ二部提出スルモノトス

第十五條 各部隊ハ毎年十二月三十一日現在調ヲ以テ航空事故年報ヲ

作製シ翌年二月末日マテニ陸軍航空本部ニ三部提出スルモノトス

其様式左ノ如シ

事故生起月日	機種型式	原因	本部判決ニ對スル處置	改善結果	將來ニ關スル意見

第四章 審査及同要旨通報

第十六條 陸軍航空本部ニ於テハ航空事故審査委員ヲ設ケ各部隊ニ於テ惹起セシ航空事故ニ關スル諸報告及送付セラレシ現品等ニ就キ審査ヲ行フモノトス而シテ審査上現地ノ踏査又ハ更ニ他ノ資料ノ蒐集ヲ要スルトキハ所要ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

第十七條 陸軍航空本部ハ審査ノ結果必要ナル事項ヲ關係各部隊官衙

附表第二

- 一、落下傘ノ種類、製作年月日及履歴
 - 二、事故發生時ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時マテノ飛行機ノ状態
 - 三、事故發生時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 四、飛行機ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 五、操縦者、同乗者カ飛出ノ際開傘ハ自動索、手動索ノ何レヲ使用セシヤ
 - 六、落下傘ヲ折疊ミタル年月日、場所、折疊者並其状態
 - 七、落下傘ノ降下状況
 - 八、著陸時ノ落下傘ノ状況
1. 破損箇所及其状況

航空事故調査規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

航空事故調査規定ヲ本書ノ通定ム

昭和十年四月十五日

陸軍航空本部長

堀

丈

夫

航空事故調查規定目次

第一章 通 則

第二章 航空事故調查委員ノ編成及調查要領

第三章 報 告

第四章 審查及同要旨通報

第一章 通則

第一條 航空事故調査ノ目的ハ事故發生ノ原因ヲ闡明シ以テ將來同一原因ニ因ル事故ノ絶滅ヲ期シ制式製作検査教育演習各種技術同工術等ニ關スル改善進歩ニ資スルニ在リ
前項ノ調査ニ方リテハ其原因ヲ綿密ニ探究シ嚴正ニ批判シ以テ判決ノ正鵠ヲ逸セサルヲ要ス

第二條 航空事故ヲ惹起シ左ノ一項ニ該當スル場合ニハ部隊長ハ航空事故調査委員ヲ任命シ調査ヲ行ハシムルモノトス
一、飛行機氣球ニ大ナル破損ヲ生シ使用ノ見込ナキトキ
二、搭乗人員ニ死傷ヲ生シ又ハ飛行機氣球ニ依リ搭乗者以外ノ者ニ危害ヲ生シタルトキ

- 三、危險ナリト判定スル故障ヲ發生セシトキ
- 四、事故比較的輕易ナルモ將來ノ爲特ニ必要ト認メタルトキ

二

第二章 航空事故調査委員ノ編成及調査要領

第三條 委員ハ事故ノ種類ニ應シ調査ニ必要ナル將校、同相當官、陸軍技

師若干名ヲ以テ編成シ其先任將校ヲ以テ長トス

委員長ハ委員ヲ指揮シ第一條ノ趣旨ニ基キ其事故ヲ調査シ先ツ航空事故要報作製ニ必要ナル資料ヲ次テ航空事故詳報作製ニ必要ナル資料ヲ部隊長ニ報告スルモノトス

委員ハ委員長ノ指揮ヲ受ケ各分擔業務ノ調査ヲ行フモノトス

第四條 陸軍航空本部長ハ必要ト認メタル場合又ハ部隊長ノ上申ニ基

キ航空事故調査委員ヲ任命シ増加派遣スルコトアリ

第五條 前條ノ増加派遣者ハ部隊長ノ任命セシ委員長ノ區處ヲ受ケ調

査ニ從事スルヲ通常トス

第六條 事故發生後應急已ムヲ得サルモノノ外ハ總テ調査完了マテ現
狀ノ儘之ヲ保存スルモノトス之カ爲要スレハ特ニ監視者ヲ附ス
ルモノトス

第七條 破損ノ狀況及調査ノ爲參考トナルヘキモノハ成ルヘク要圖又
ハ寫眞トシ之ヲ詳報ニ添附シ尙原因調査上特ニ必要ト認ムヘキ
部分ハ報告ト共ニ現品ヲ提出スルモノトス

第八條 原因不明ニシテ判決シ能ハサル場合ニ在リテモ其狀況及經緯
ヲ詳細ニ記載シ特ニ原因推定ノ憑據ヲ明確ナラシムルコトニ勉
ムルヲ要ス

第三章 報告

四

第九條 本規定ニ據ル航空事故報告トハ航空事故急報航空事故要報、航

空事故詳報、航空事故特別報告及航空事故年報ヲ總稱ス

第十條 第二條一、二ノ航空事故ヲ惹起セル場合ニハ部隊長ハ直ニ陸軍

航空本部長ニ航空事故急報ヲ爲スト共ニ航空事故要報ヲ次テ航空事故詳報ヲ同官ニ提出スルモノトス

但第二條三、四ノ事故ニ對シテハ前項報告ノ一部ヲ適宜省略スルコトヲ得

第十一條 航空事故急報ハ電報又ハ電話等適宜ノ方法ヲ以テ急報スル

モノトス

航空事故急報ニハ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス

- 一、事故發生日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、演習ノ種類
 - 四、機種(型式)番號
 - 五、搭乗者官氏名
 - 六、人員器材ノ損傷程度
 - 七、其他特ニ必要ト認ムル事項
- 第十二條 航空事故要報ハ勉メテ事故發生當日之ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故要報ニハ事故ノ程度ニ應シ通常左ノ事項ヲ含マシムルモノトス然レトモ事故發生現地遠隔セルカ又ハ情況不明ノ際ハ報告事項ノ完備ニ拘泥スルコトナク機ヲ逸セス提出スルヲ要ス

- 一、事故發生年月日時
 - 二、事故發生場所
 - 三、機種(型式)及番號
 - 四、搭乗者官氏名
 - 五、任務及事故發生ノ概況
 - 六、搭乗者ノ受傷程度
 - 七、器材ノ損傷程度
 - 八、處置ノ大要
 - 九、其他(必要)ト認ムル事項
- 航空事故要報ニハ事故發生現地遠隔セルカ又ハ其原因専門的調査ヲ要スル爲規定ノ日次内ニ航空事故詳報ヲ提出シ難キヲ豫想セシトキハ其旨附記スルヲ要ス

第十三條

航空事故詳報ハ事故發生後概ネ十日以内ニ六部ヲ作製シ發送スルモノトス

航空事故詳報ハ附表第一ノ様式ニ據リ記載シ尙要スレハ左ノ事項ヲ記述添附スルモノトス

一、事故者ノ伎倆及性格竝將來ノ見込等ニシテ事故ニ關聯シ特ニ必要ト認ムル事項

二、事故發生ノ狀態及其經過ニシテ詳述ヲ要スルモ規定欄内ニ記述シ得サル事項

三、事故者及關係者ニ就キ調査セシ事項

四、地形、天候氣象等ニシテ特ニ事故ニ關係アル事項

五、事故者ノ體驗及感想等ニシテ特ニ將來參考トナルヘキ事項

六、其他必要ト認ムル事項

航空事故詳報ニハ航空事故ニ關聯セル賞罰ハ必ス記載スルモ細部ニ互ラサルモノトス

落下傘ヲ使用セシトキハ附表第二ヲモ併セ添附スルヲ要ス

第十四條 秘密ニ屬スル器材又ハ事故ノ原因秘密ニ屬スル航空事故詳報ハ航空事故特別報告ト爲シ二部提出スルモノトス

第十五條 各部隊ハ毎年十二月三十一日現在調ヲ以テ航空事故年報ヲ作製シ翌年二月末日マテニ陸軍航空本部ニ三部提出スルモノトス

其様式左ノ如シ

事故生起月日	機種型式	原因	本部判決ニ對スル處置	改善結果	將來ニ關スル意見

第四章 審査及同要旨通報

第十六條 陸軍航空本部ニ於テハ航空事故審査委員ヲ設ケ各部隊ニ於テ惹起セシ航空事故ニ關スル諸報告及送付セラレシ現品等ニ就キ審査ヲ行フモノトス而シテ審査上現地ノ踏査又ハ更ニ他ノ資料ノ蒐集ヲ要スルトキハ所要ノ委員ヲ派遣スルコトヲ得

第十七條 陸軍航空本部ハ審査ノ結果必要ナル事項ヲ關係各部隊官衙

附表第二

- 一、落下傘ノ種類、製作年月日及履歴
 - 二、事故發生時ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時マテノ飛行機ノ状態
 - 三、事故發生時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 四、飛行機ヨリ操縦者、同乗者カ飛出セシ時ノ高度及其時機ニ於ケル飛行機ノ状態
 - 五、操縦者、同乗者カ飛出ノ際開傘ハ自動索、手動索ノ何レヲ使用セシヤ
 - 六、落下傘ヲ折疊ミタル年月日、場所、折疊者並其状態
 - 七、落下傘ノ降下状況
 - 八、著陸時ノ落下傘ノ状況
1. 破損箇所及其状況

2. 吊索ノ縫レノ有無及其狀態

3. 其他ノ狀態

九、體驗感想

十、其他必要ノ事項

附註

附註

航空事故調査規定

昭和十年四月
陸軍航空本部

航空事故調査規定ヲ本書ノ通定ム

昭和十年四月十五日

陸軍航空本部長

堀

丈

夫

航空事故調查規定目次

第一章 通 則

第二章 航空事故調查委員ノ編成及調査要領

第三章 報 告

第四章 審査及同要旨通報

第一章 通則

第一條

航空事故調査ノ目的ハ事故發生ノ原因ヲ闡明シ以テ將來同一原因ニ因ル事故ノ絶滅ヲ期シ制式、製作、検査、教育、演習、各種技術、同工術等ニ關スル改善進歩ニ資スルニ在リ

前項ノ調査ニ方リテハ其原因ヲ綿密ニ探究シ嚴正ニ批判シ以テ判決ノ正鵠ヲ逸セサルヲ要ス

第二條

航空事故ヲ惹起シ左ノ一項ニ該當スル場合ニハ部隊長ハ航空事故調査委員ヲ任命シ調査ヲ行ハシムルモノトス

- 一、飛行機、氣球ニ大ナル破損ヲ生シ使用ノ見込ナキトキ
- 二、搭乗人員ニ死傷ヲ生シ又ハ飛行機、氣球ニ依リ搭乗者以外ノ者ニ危害ヲ生シタルトキ